

2012.06

Vol. 236

Bulletin

Japan Institute of Architects Kanto-Koshinetsu Chapter

特集 JIA 関東甲信越支部の歴史

支部長挨拶・四役の声／委員会活動報告／地域会活動報告／部会活動報告



CONTENTS

特集：
JIA 関東甲信越支部の歴史

3 JIA 本部～支部の成り立ちについて

4 地域会の変遷
5 支部イベントの歴史
7 部会（クラブ）の歴史

支部長挨拶

8 JIA 関東甲信越支部 支部長 上浪 寛

四役の声

9 ・幹事長 河村 大助 ・副幹事長 堀越 英嗣 ・副幹事長 藤沼 傑
10 ・副支部長 西勝 郁郎 ・副支部長 赤羽 吉人 ・副支部長 大澤 秀雄

委員会活動報告

11 ・総務委員会 ・アーバントリップ実行委員会 ・建築セミナー実行委員会
・JIAトーク実行委員会 ・学生デザイン実行委員会 ・大学院修士設計展実行委員会
12 ・広報委員会 ・交流委員会 ・建築相談委員会
・保存問題委員会 ・支部建築家資格制度委員会 ・アーキテクト・ガーデン実行委員会
13 ・顧客支援システム委員会 ・UIA東京大会支部推進委員会 ・JIA 横浜大会実行委員会
・委員会一覧

地域会活動報告

14 ・JIA 神奈川地域会 ・JIA 千葉地域会 ・JIA 埼玉地域会 ・JIA 茨城クラブ
15 ・JIA 栃木クラブ ・JIA 群馬地域会 ・JIA 山梨クラブ ・JIA 長野県クラブ
16 ・JIA 新潟クラブ ・JIA 中野クラブ ・JIA 三多摩地域会 ・JIA 杉並地域会
17 ・JIA 新宿地域会 ・JIA 城東地域会 ・JIA 文京地域会
18 ・JIA 世田谷地域会 ・JIA 千代田地域会 ・JIA 中央地域会 ・JIA 城南地域会
19 ・JIA 城北地域会 ・JIA 港地域会 ・JIA 目黒地域会 ・地域会一覧

部会活動報告

20 ・ミケランジェロ会 ・デザイン部会 ・都市デザイン部会
・住宅部会 ・メンテナンス部会 ・住宅再生部会
21 ・情報開発部会 ・建築交流部会 ・学芸祭部会
・建築家写真倶楽部 ・部会一覧

2011年度・UIA 支援金協力者
(支部会員)

22 2011年度・UIA 支援金協力者 (支部会員)

退任の御挨拶

24 ・Bulletin 編集長 退任の御挨拶 ・広報副委員長 (HP 主査) 退任の御挨拶

広報からのお知らせ

25 Bulletin に広告を掲載しませんか

25 編集後記

26 ・関東甲信越支部の変遷

表紙写真氏名

| | | | |
|------|------|------|------|
| 椎名政夫 | 佐々木群 | 戸尾任宏 | |
| | 柳澤孝彦 | 斎藤孝彦 | 服部範二 |
| 松原忠策 | 伊平則夫 | 上浪 寛 | |

社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館
Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294
http://www.jia-kanto.org/members

JIA 関東甲信越支部の歴史



椎名 政夫

初代会長、丹下健三先生と理事会

「会員はどうしても15,000名以上、出来れば20,000名を集めたい。」私が新会長丹下先生から指示をいただいた最初の言葉です。そばにいた藤井正一郎専務理事のいつもの難しい顔の表情をうかがうと、同席の理事達で亡くなった内井昭蔵さん、北代礼一郎さん、林昌二さんたちの元気な発言もなく沈黙のままでした。それでも田辺博司さんが、「日本の人口がアメリカの半分なので、AIAの会員数の半分として2～3万人の会員がいてもおかしくない。」といった提案まで出て少しは打ち解けた雰囲気になったものの、丹下先生の厳しい表情とクールな眼差しに強い意志をみて少々たじろぎ、関東甲信越支部長をお引き受けした責任に緊張したことは25年も経た今でも忘れません。

そして、会員リクルートにいくつかの支部を訪ね、旧設監協会の集いにも亡くなられた鶴巻さんの案内で出席しながら、理事達と手分けして会員を募りスタートにこぎつけた時には7,000名近くに達しました。

丹下会長は在任一年でしたが、その後北代会長にはAIA関係、林会長には建築家資格制度海外調査、そして鬼頭会長の時に資格問題 JIA 試案などは私が副会長、委員長としてお手伝いをし1995年まで協力を続けることが出来ましたが、丹下会長ほかつづく3人の会長も亡くなられて淋しい思いです。

しかし私達が直面した JIA の問題はいまだにキャリアオーバーを続けていて、JIA の危機とも言われています。こんな時にこそ、説得力のある創造的な職能団体が生まれることを期待しています。

支部設立に向けて

日本建築家協会は1987年5月11日に設立(同年6月15日社団法人許可)され、四半世紀を迎えようとしております。新しい団体(新日本建築家協会)の設立にあたり、旧日本建築家協会(家協会)と日本建築設計監理協会連合会(設監連)が発展的に解散し、2つの団体が世話役となり、職能倫理をもった建築家個人を会員とする、より多くの設計監理を専業とする方々を新たに糾合して、職能を目指す個人の団体として設立されました。

関東甲信越支部も、同年7月7日の設立に向けて、これまでの会員数から大幅の会員増の組織として、また多様な会員構成となることから、それらに対応が充分できる組織として、イ)支部規定、ロ)支部運営費、ハ)役員構成、ニ)組織体制、ホ)広報、ヘ)入会審査、ト)支部設立総会等の諸課題に関する検討が行われました。当初の支部運営コンセプトは、1)開かれた組織であり、かつ会員が参加意識を持てる組織であること、2)社会、行政に迅速に対応できる組織であること、3)技術向上は勿論、社会、経済の変化、展望に的確

部会制を採用して、その両組織の連携を図り、有機的な組織体制を図るべく、また東京以外の活動の拠点としての地域組織の立ち上げなど同時に展開が図られました。事業では旧団体の諸活動をどのように引き継ぎながら、新たな活動の展開を図るべきか、検討が行われ、組織体制の整備がされました。

また「開かれた JIA」を実践するために、技術・情報交流及び財政基盤の確立として、「賛助会員制度」を立ち上げ、多くの建築関連企業の参画をいただき、相互交流・親睦が積極的に行われてきました。毎年、交流大会(当初は賛助会員大会)や、フレンズカップ大会を通じて、交流親睦のほか、支部機関誌 Bulletin への技術情報シート(技術情報の提供。現在は、支部ホームページの賛助会員ページで展開)による情報交換などが図られてきました。今後、更に多くの正会員の参加及び情報交流が望まれるところ。

地域別会員数比較

| | 1987年 | 2012年 |
|-----|-------|-------|
| 神奈川 | 90 | 214 |
| 千葉 | 62 | 100 |
| 埼玉 | 27 | 53 |
| 茨城 | 23 | 41 |
| 栃木 | 13 | 20 |
| 群馬 | 12 | 28 |
| 山梨 | 13 | 11 |
| 長野 | 44 | 72 |
| 新潟 | 11 | 25 |
| 東京 | 1,902 | 1,659 |
| 計 | 2,197 | 2,223 |

1987年7月号 Bulletin 2より
2012年4月本部 HP 名簿より



新日本建築家協会設立・業界紙記事 (事務局：菊地良一)

JIA 関東甲信越支部の歴史

地域会の変遷

JIA 神奈川誕生当時の思い出

JIA 神奈川 2代目代表
名誉会員
服部 範二



■新日本建築家協会 JIA が初代丹下健三会長のご努力により創設されたのは1987年5月11日のことで、当時の皇太子ご夫妻のご臨席のもと、新赤坂プリンスホテルでの華々しい創立総会は感激的なものでした。

1985年に小事務所を横浜に創設した私にとって、それまでの事務所が会員としての設計監理協会よりは、個人が会員となる JIA は体質によく合うと考え、当初より入会しました。

当時県下には(社)神奈川設計監理協会と、(社)神奈川県建築士事

務所協会が併立していましたが、神奈川にも地域会を作ろうとする動きが活発化し、有志が集まって構想を練り、1989年1月13日に JIA 神奈川として佐々木群関東甲信越支部長をお招きして「新年の集い」を開催しました。そこで発起人や役員構成などを検討し、丁度 JIA が創立されてから2年に当たる1989年5月13日、県民ホールで設立総会を開催する運びとなりました。当時の長洲一二県知事に祝辞をいただき、初代代表に松本陽一氏を選出、県内に勤務先或は居住する会員を自動的に JIA 神奈川会員とし、私の事務所を当面の事務局として200名余でスタートを切った次第です。

その後は県下大学卒業設計コンクールや'92JIA大会横浜など、実績を積み重ねることになりますが、現在若い方々が積極的に活動するのを見るにつけ、感無量なものがあります。

今も続く JIA 千葉の模索

JIA 千葉 元代表 / 元支部監査役

田中 修一



■嘗て1970年代に建築家協会、建築設計監理協会と称する団体が都道府県単位で、またその連合体が全国組織としてあった。しかし新日本建築家協会(1987その後1996現JIAとなる)を立ち上げるに当たって、建設省の認可条件がこの2団体を廃止することにあり、当時、千葉の鶴巻昭二(故人)は全国行脚に奔走したものである。

とする一方で、千葉県のみならず設計事務所としての地域の位置づけが不可欠だとの立場から設計監理協会を存続させた。JIA 千葉地域会の発足は1989年だが、建築家個人と事務所の団体が並立した時代が長く続く。しかしほとんど同じメンバーが所属しながら個人も事務所もないだろうと合理策を検討する中で、1998年から広報誌を共同出版、2002年に設計監理協会を解散して建築家個人の任

意団体「千葉県建築家協会」を設立し、財産を引き継いだ。JIA 本部にこの名称を以て JIA 千葉と認定するよう申し入れたが却下された経緯がある。結果として JIA 千葉は、県内活動は千葉県建築家協会と一体(千葉県建築家協会・JIA 千葉)で、JIA に対しては千葉地域会の名称で活動している。名称の更なる一元化は今後の課題だ。

千葉の特徴は、地域に密着した活動を建築他団体と共催で行うことで、市民サービスに寄与していることだろう。行政庁との懇談会、建築相談協議会、耐震判定協議会などのほかに、大きなイベントとして建築学生賞がある。立ち上げ時点から JIA のメンバーが積極的に関わり、今年で24回を数えるまでに



千葉県建築学生賞(2011年)の審査風景

くてはならない。そのためには同じ志を持った会員と地道な活動を続けて行きたい、と地域会の存在意義を囁々と語られました。小生は、熱くなる胸の内を抑えて、次回は必ず仲間を増やさねばと思ひ、アンケートに参加検討中の方に失礼を省みず何度もお電話をさせていただきました。次回は確か3名、その次は5名、と同志の会員が増え、設立準備会発足定数の8名を達成できました。港地域会は、区や住民の方々と様々な交流を深め、古地図を使った高輪マップなどの貴重な活動を続けておられました。その野老代表は昨年仕事中に倒れられ、建築家として83年の立派な一生をおえられました。葬儀は四ツ谷の聖イグナチオ教会でしめやかに行われ、小生も参列させて頂きましたが、会場は千代田地域会の設立時のメンバーである村上晶子さんの設計された建物で魂を鎮めるための素晴らしい空間でした。正に JIA 会員であることの意義を体験した次第です。最後に事務局でまとめた現状の地域会の会員数のデータによると、都心ほど在勤の大手事務所会員の比率が高く、会員数が少ないのがわかります。でも小生が属する千代田地域会では景観や保存、学生作品の展示、防災セミナーと多様な活動を続けています。今一つ会員の皆様の参加を呼び掛けたいと思っております。

東京の地域会について

千代田地域会 監査

中山 信二



■2004年頃のことです。当時の松原支部長よりのミッションを受けて、副支部長としてまだ組織化されていない東京都内の地域会を立ち上げる活動をしておりました。約1700人の在在在勤の会員相手に趣旨文を送っても1割強の方しかご返事いただけなく、その大半はアクティブの方ばかり、休眠会員の方を含めて活性化しようという支部方針でしたので、前途多難のスタートでした。都内では中野クラブの次に西東京地域会(現在の三多摩地域会)と2000年に立ち上げた東京地域会も主要メンバーが杉並地域会として活動を開始していましたが、それでも東京は広く23区中21区は未開拓の状況でした。その中で印象深いのは、港地域会準備会でした。最初のお声掛けに対し、出席された会員はただお一人で高齢の野老会員でした。氏とは初対面でしたが、高輪地区の貴重な景観や道路際の何気ない塀や樹木が、生活空間を共有する住民に何も知らされないまま立ち消えてしまうのを、そこに住まう一建築家として何かしな

JIA 関東甲信越支部の歴史

支部イベントの歴史

保存問題大会のこれまで

夏目 勝也



■「保存問題大会」は1991年長野県に始まり、続いて2群馬、3栃木、4茨城、5千葉、6新潟、7神奈川、8東京、9埼玉、10山梨、11栃木、12長野、13群馬、14千葉、15茨城、16東京、17新潟、18神奈川、19山梨、20栃木(東日本大震災で中止)、21栃木と、概ね3巡目、支部の各都県で開催してきました。委員会発足前後は世相も JIA の内部においても、建築の保存問題への認識は極めて低く、多くの軋轢が生じました。その解消と保存問題のより広い理解を求めて、「拡大委員会」の形で地域に出前して委員会を行いました。

交流大会の歴史「開かれた JIA」

鈴木 敏彦



■交流大会の歴史は賛助会員制度の歴史でもあります。交流委員会の前身である対外交流委員会が設立されたのは約25年前の1987年9月10日です。



開会挨拶を行う矢野対外交流委員長

その設立目的は「JIA の設立の基本理念を以て、建築家が職能団体として社会に貢献するために、関東甲信越地域に於ける他諸団体及び賛助会員等との交流親善

新生 JIA の 勝関としての第1回ガリバー展

(銀座ポケットパーク展からアーキテクツガーデンへ)

東 直彦



その頃の私

■新生 JIA が発足した直後の1987年の11月末に、突然2ヶ月後の品川ココヨ5階サロン全面を使った、JIA としての3日間のイベント、企画計画実施集客の為の実行委員長を仰せつかった。直ちにデザイン部会を中心に福富、半谷、後閑、澤、神長、阿部、竹内氏らと委員会を立上げた。皆その2ヶ月間は全く事務所の仕事は出来ず、死にもの狂いで立ち向かった。

まずテーマをガリバー展とし、会員事務所に勝手に行って「この模型を出展して下さい」と、こちらの主旨に合った模型を約300点選び、搬送搬入し、TVへのPRインタビューやセミナーも準備した。展示担当の福富氏のダンボールを使ったコピー「あな

委員会は1994年「保存問題委員会とは」の一文で、建築家の保存活動の理念をうたい、JIA 活動の中で数少ない対外部へ発信できる委員会の行動指針を明確にしています。JIA の会員に限らず、地域社会や市民を誘って開催するようになったのもその頃からで、「拡大委員会」は「地域開催」と呼ぶようになり、さらに今日の「保存問題大会」へと呼称も内容も拡充してきました。その変遷は委員会が辿ってきた道のりと、JIA 会員の意識や世相の変わりようと概ね一致するところです。

昨今の震災で多くのダメージを受けた建築界は、契機として建築を使い続けることの大切さの認識を新たにしました。今後も「保存問題大会」の開催は、次の時代への新たな指針を示し続けることが期待されます。

を通じ、技術・業務等の幅広い情報交換の場を設けること」でした。当初の委員会の主な業務は賛助会員の募集であり、委員の方々は優良企業に加入していただくことに奔走されました。

委員のご努力と賛助会員のご協力により翌年10月には第1回賛助会員大会(後の交流大会)が開催され、賛助会員数は約300社(420口)となりました。委員会はテーマとする「開かれた JIA」を実践するため、交流大会に限らずフレンズカップ大会、見学会、セミナーなど様々な技術交流、懇親の場を設け、会長をはじめとする多数の正会員と賛助会員との交流を企画しました。賛助会員も入会時にはお付合程度との意識もあったようですが、正会員の「開かれた JIA」を目指す真摯な取組に共感し、強固な協力体制が築かれていきます。以降、交流大会は交流委員会の年間総括と、多彩な講師・パネリストによる講演会等を併せ開催する、正会員と賛助会員の交流の場として引き継がれています。

賛助会員数の減少が続く昨今、改めて「開かれた JIA」を考える時期に来ているのではないかと思います。

たもガリバーになってみませんか？」に相応しい会場作りの中、当日のオープニングパーティー後、私達もガリバーの扮装で夢中で案内し、来場の子供達とも模型を前に楽しく話し込んだりした。会場はユーモアと熱気一杯で、打上げも狂喜の雄叫びとなった。

「このガリバー展を新生 JIA の勝関としよう」と集まった仲間の強い心があの壮大なガリバー展を創り出したのだと思う。何も恐れることは無かった。そしてその後、皆でデザイン委員会の廃止に続き 保存問題委員会、学芸祭部会、アーバントリップ、中野クラブ地域会、地域サミット、全国副支部長会議等の創設へと向った。



JIA 関東甲信越支部の歴史

25回のフレンズカップ大会を振り返って



木村 年男

■日本建築家協会は1987年に結成され、その後の協会歴史年度と同じ回数（一年に2度の時も）の関東甲信越支部交流委員会フレンズカップ大会が、継続開催されてきました。

結成時の体制下、特に支部の組織化と交流委員会発足に合わせ、その時に奔走した諸先輩方のご苦労や、賛助会員企業のご理解と賛同があって現在の形が存在しています。そのことを考えれば、これからそれを如何に維持し発展させなければならないかは私たちに課せられた責務です。

今でこそ建築文化、技術発展のため、利害関係者がそれぞれ純粋な気持ちで協調できるようになっていますが、過去には理解されない会員による批判もあったと聞きます。

「遊び」と言ってしまうとそれまでですが、批判を乗り越え、継続してそのような協調環境を作ったのもフレンズカップ大会であると言っても言い過ぎではないと思います。

当初250名を超える参加者を受け付ける大会もあり、会場との調整、企画、運営にはその協調なしには考えられませんでした。現在、ゴルフ人口の絶対数が減少している上、厳しい経済環境下でその数は4分の1になっています。しかし、過去からの意志は必ずや次の世代に受け継がれると確信しています。これからも皆さんの積極的参加をお願いします。



Column

バーと共に失われたもの



渡辺 武信

■建築家会館本館のバーがなくなってから、もうかなりの歳月が過ぎた。その後に入会した会員の方々に羨ましがらせるかも知れないが、あのバーは現在の建築家クラブとは比べものにならない、それはそれは幸せな空間だった。

1972年に34歳で旧・建築家協会（JAA）の会員となった私は、このバーで前川国男、大江宏、海老原一郎、雨宮亮平、進廉らの先達と親しく盃を交わすことができたのだ。以前に書いたことと重複するが（BULLETIN、2008年8月）、これは良友・宮脇の教えに従った結果である。当時の家協会は少数精鋭主義で敷居が高く、今のように入会のための勧誘はなかったため、入会の資格があるかどうかは自分で判断しなければならなかった。私は自分の作品二点がそれぞれ別の建築誌に掲載された時、自分に「資格がある」と判断し、入会申込書類をもらうために協会に来た。そこにたまたま宮脇さんがいて「お

う、武信、入るのか。俺が書いてやるよ」と言って、昼間ゆえさずかにひと気のないバーのカウンターで、サラサラと推薦文を書きながら、「入っても実質的には何のメリットもないよ。でもバーでは前川さんや大江さんと対等に話せるから、出来るだけバーに居ろよ」と言った。実はこれで入会できたわけではなく、もう一人の会員に推薦文を書いてもらって整えた書類を出すと、さらに面接審査があって入会となるのだった。そんな風に苦労して入会できたので、私は入る早々に支部ニュース編集委員のお役目をこなしながら、しょっちゅうバーに通った。支部ニュースの割り付けもバーでやったし、別に用がなくても、新宿、渋谷で映画を観た後などに、誰か居ないかな？とバーを覗くと、誰か居るんだなあ、これが…。

家協会はこの当時から建築家職能確立の運動をしていたが、やがてその運動強化のために会員増強に踏み切った。私はこの新方針の主導者だった円堂政嘉会長の下で本部理事を務めていたから自分にも責任があるとは思いますが、会員増強が本会の良い意味でのサロン性を薄め、バー消滅への道を開いたとも言える。宮脇さんは会員増強が決まった時、彼の愛したバーの運命を見通したように退会した。そのことを思うと、古き良き時代を思う郷愁を超えて、何か大切なものが失われた、と思わずにはいられない。

四半世紀、お世話になって



事務局
菊地 良一

日本建築家協会も四半世紀を経て、新たな法人形態（公益法人）に向けて、現在、申請準備が進められております。この間、事務スタッフとして、様々な事務、事業に関わってきました。旧団体からの継続事業としての、「建築相談室」、自己啓発プログラムとしての「建築セミナー」（協賛：ロンシール工業（株）・1978～2008年）、専門外の素養の向上と、文化事業としての「JIAトーク」（協賛：日新工業（株）・1976年～現在）など、歴史をそれぞれ重ねてきております。新たな事業として、「建築家と模型展」（現在はアーキテック・ガーデン建築祭）、アーバントリップ、「卒業設計コンクール」や「大学院修士設計」などにも携わることができました。また阪神淡路大震災を契機に、総合的な耐震安全性の必

要性から、日本建築構造技術者協会と建築設備技術者協会及び日本建築家協会の会員有志が核となり、任意団体「建築耐震設計者連合JARAC」の運営及び任意団体から特定非営利活動法人「耐震総合安全機構 JASO」への移行な

どもに関わることができ、多くのことを学ぶ機会を得ました。

新団体設立から四半世紀、この間に社会情勢、経済状況、組織体制の変革など様々な変化がありましたが、この団体の一職員として、各方面の方々との交流や、多くの方々にお世話になり、育てていただきましたことを感謝いたします。

地域別会員数比較

| | 1987年 | 2012年 |
|-----|-------|-------|
| 神奈川 | 90 | 214 |
| 千葉 | 62 | 100 |
| 埼玉 | 27 | 53 |
| 茨城 | 23 | 41 |
| 栃木 | 13 | 20 |
| 群馬 | 12 | 28 |
| 山梨 | 13 | 11 |
| 長野 | 44 | 72 |
| 新潟 | 11 | 25 |
| 東京 | 1,902 | 1,659 |
| 計 | 2,197 | 2,223 |

1987年7月号 Bulletin 2より
2012年4月本部 HP 名簿より

JIA 関東甲信越支部の歴史

部会（クラブ）の歴史

デザイン部会発足当時の思い出

大ホール満員の月例会とバスツアー



南條 洋雄

■新日本建築家協会が発足したころ、活動の最大勢力が関東甲信越支部のデザイン部会であったことは間違いない。初代部会長は後に会長となる大宇根さん、部会員数は百名を超えていたと思う。建築家会館の大ホールが定例会場で、分科会に分かれテーブル毎に活発な情報交換や研究報告などがなされていた。当初はデザイン、景観、構造、企画、地域、保存の各分科会、後に都市デザイン分科会が加わり7分科会となった。その後保存分科会は保存問題委員会に、都市デザイン分科会は単独の部会となる。

主力は50歳代の諸先輩と私たち40歳代で、若手会員の受け皿としても重要な存在であった。年に一度の研修合宿は、建築話題作や都市集落などの見学に加え、参加者の親睦と訪問先地域会との交流を兼ねた充実したイベントであり、支部の各県を巡回していた。最盛期には参加者が50名を超える人気ツアーで、私も山梨を皮切りに、群馬、新潟、栃木、茨城、埼玉、千葉などに参加した記憶が

ある。写真は偶然発見した1993年茨城ツアーでの集合写真である。

その後、部会員の高齢化や分科会分離など、いくつかの理由がござなり、急激に会勢は弱まり、紆余曲折を経て現在の姿になっている。私にとってはJIA＝デザイン部会でスタートした忘れがたい存在であり、1989年山梨ツアーの昼食時に大先輩から「ツアー報告原稿を書きなさい」といわれJIA機関誌デビューとなった。その後、都市デザイン部会を拠点に活動を続けているが、原点はまちがいなく当時のデザイン部会にある。



住宅部会の成り立ち



高藤 孝彦

■「建築の設計は、住宅に始まって住宅に終わる」とか言う。だが、私が旧JAAに入会した45年ほど前、会員に主な業務として住宅設計をやっている人は少なかったと思う。だから、会の活動として住宅を取り上げるとなると、住宅政策や、日照権・景観・防災といった堅くて生真面目な議論になりがちで、個々の住宅デザインについて語るの、憚られる雰囲気だった。

しかし、その後部会制度ができ、初代部会長、戸尾任宏さんや渡辺武信さん、木村誠之助さんなど、多くの著名な住宅作家がアクティブに活動し始めると、新作のオープンハウスや講師を招いての勉強

会などが盛んに開かれ、部会員も百人近くに増え、大いに活気づいた。関西に出江寛さんや石井修さん設計の住宅を見学に行った旅行会や、各界の職人と呼んでの技術の裏話など、私にとっては、実に楽しくて有益な思い出が多い。

楽しそうにやっている住宅部会の隆盛ぶりをみて、当時の円堂正嘉会長が「住宅部会はただの仲良しクラブか。」などと批判したこともあり、他の生真面目な部会からは、なんとなく外様の存在に見られた時期もあった。

それが今はどうだ、活動の幅は、職能問題、社会問題、対市民活動からデザイン分野まで幅広くウイングを広げ、JIAを代表する部会の一つである。また、若手会員（40～50代でもこう呼ばれる。）の活動の主戦場ともなっている。実に喜ばしいことだ。

ミケランジェロ会のこと



富安 秀雄

■ミケランジェロ会は、今の家協会ビルの出来の一歩前、今のビルのすぐ近くのビルに協会があった頃、ヌードデッサン会として発足、その後、絵の会として名称を公募、ミケランジェロ会となった。会員は、30名程で、年1回、スケッチを行い、春・秋2回画展を行って来た。春は、ここ二十年程、新宿プロムナード・ギャラリーで画展、秋は家協会展に参加して、画展を行っている。今年のスケッチ会は、5月、横浜港付近で行うことになっている。当初からの会員の方も

多く、次第に高齢化している現状で、若い方にも参加を求めているところである。私は、市浦事務所の大阪支店に、昭和56年まで勤務、関西家協会の画展に出品していた。今も継続して出品させてもらっている。市浦氏が

亡くなられて、東京に戻って、ヌード・デッサンの会に参加し、以降ミケランジェロ会の会員として、現在に至っている。



2011年度 JIA 関東甲信越支部・支部長挨拶 －激動の2011年を振り返って－



JIA 関東甲信越支部
支部長
上浪 寛

私が支部長に就任して2年が経ちました。1年目は、盛り上がりにかけていたUIA 東京大会の準備活動を軌道に乗せる事と、支部改革として委員会活動の活性化を模索しました。年度末に向けて実行委員会間の連携意識やUIA 東京大会準備活動がようやく軌道に乗ったところで、東日本大震災が起こり、足踏みを余儀なくされました。その後の激動の一年を振り返ってみます。

4月：本部理事会並びにUIA 本部との間でUIA 東京大会開催の是非が議論される。過去のUIA 大会とは一線を画し、震災直後だから発信できる大会として、テーマを大きくシフトチェンジして開催することにする。関東甲信越支部役員会では、今まで消極的だった会員も災害が大きなテーマになれば建築家が当事者意識を共有できるという意見が相次ぎ、役員全員が開催に賛成した。東京では学会、東京建築士会と合同の震災報告会を開催し、被災地以外の県単位地域会では被災地支援に関する会員集会や懇談会が開かれ、出席する。

5月：東北被災地並びに東北支部事務局を2度訪問する。阪神大震災直後に訪れた阪神被災地と大きく違うのは、被災地に生き物の気配を感じないことだ。10年後の後輩たちに仕事を つなげるため、東北支部では復興支援の協力を惜しまず行っている。

6月：UIA 東京大会前最後のUIA 理事会がシンガポールで開催され、2011年UIA 大会の東京開催が正式に確認された。海外から大きな関心を集めながらも来日する人が激減しているこの時期、リトアニアから10名の建築家と10名の建築学科学者が来日し日本の学生と共同でワークショップを行い、JIA 本部・支部会員がもてなした。文化庁より要請のあった文化財ドクター派遣事業に学会とJIA が共同で取り組む。これは歴史的な快挙だ。

7月：UIA 大会初日の開会式典の運営を関東甲信越支部で仕切って欲しいという要請を受け、支部長中心に対応する。大会実施本部として大会開催まで毎週打ち合わせを重ねる。5月に引き続き震災をテーマとした全国支部長会議を阪神地方で開催する。阪神大震災復興の成功した地区、そうでない地区の地元自治会、街づくり協議会、行政の人々と意見交換する。首都圏事前復興の大切さを実感する。2012年のJIA 全国大会開催地が宙に浮き、関東甲信越支部で開催することになる。

8月：UIA 東京大会直前の国際会議であるアルカシア（アジア建築家連合）ベトナムフォーラムが開催される。会長の国広ジョージ氏を応援するためツアーを組んで参加する。UIA 大会参加登録は全国の大会推進委員の踏ん張り、地方支部や関東甲信越支部県単位の地域会では目標の達成が見えてきたが、東京を中心とする大都市は低迷したまま。 「万人の建築家展」の登録は1,000名弱となっているが、日本人より外国人建築家参加が多い。

9月：災害対策委員会報告がある。603名のJIA 会員が被災地への支援に駆け付けた。専門家に求められる復興支援はこれから継続的な活動が必要だ。臨時総会10日前になってもほとんどの支部で、はがきの回収率が20%以下だ。定款改定には全会員の2/3以上の賛成が必要となる。地域会へ協力を要請し、個別に連絡を取っていく。東京では回答していない多くの会員が決議の存在を知らない状態で、説明するとほぼ全員がはがきによる回答を約束してくれる。結果として総会への参加者は全会員の77%となり定款改定の決議は可決された。臨時総会当日からUIA 東京大会が始まる。六本木ヒルズタワーで開催

された前夜祭（ネットミーティング）参加者は2,000名を超え、大会参加登録者は110カ国から5,100余名を数えた。40%以上が海外からの参加者で、震災直後から世界に向けて発信してきた「災害を乗り越えて連帯し持続可能な未来へ」という新たなテーマについて、世界中の関心の高さを実感した。UIA 本部による「UIA 東京宣言」、建築5団体による「建築・まちづくり宣言」、JIA による「JIA 建築家宣言」が出され大会が閉幕した。引き続きUIA 総会が開催され、最終日には次々回UIA 大会開催地がソウルに決定された。

10月：来年のJIA 全国大会を横浜で開催することに決定する。1年という短い準備期間のため、会場の選定に苦慮する。大会実行委員長を支部長とし、副実行委員長を副支部長3名と神奈川地域会代表とした上で、神奈川地域会先輩方に大会委員長並びに大会顧問をお願いする。

11月：2012年JIA 全国大会の会場が決定される。大会テーマを「共に超える」とし、建築家が一般市民を交えて一緒に考える場とする。規程類検討特別委員会が設置され全国支部長10名と総務委員会が就任。関東甲信越支部長は会員・会費WG 主査として2012年本部総会決議に向けて会員規程、会費規程を取りまとめていく。

12月：2010年度に委員会の活性化を目指した支部委員会検討会議によりそれぞれの実行委員会の連携を図ることを申し合わせた、その成果として2012年のアーキテクツ・ガーデンを新たなスタイルで開催する。一般市民から評価の高い、地域会や各実行委員会の普段の活動を6月にまとめて支部事業として広報する試みだ。UIA 東京大会に300名以上を送り込み、国別ブースでは300㎡の展示を設けた中国との国際交流が進んでいる。JIA 本部が同じUIA 中国の国家支部である中国建築学会（ASC）と友好協定を結んだ。

1月：支部恒例の「新春の集い」で2年前から始めた連続職能シンポジウム第8回を開催し、UIA 東京大会で発信した建築家宣言を元に社会における建築家の役割を総括する。市民が求めている建築家の役割は、様々な分野に進出する姿であり、建築基本法制定の大切さを確認した。他団体とも連携して資格制度を含めた制度改革の提言を進めると同時に、市民の理解を深めなければならない。具体的な擦り合わせのためには本部同士の協議と同時に支部、地域会同士の協議が重要だ。

2月：JIA 横浜大会の基調講演者等、主要なプログラムを決定する。**3月**：昨年東日本大震災翌日に予定されていた保存問題栃木大会が延期され、2年越しの大会が開催。160名という過去最多の参加者を数えた。県単位の地域会ですでに連携が進んでいるが、東京では初めての試みとなる東京三会建築会議を開催する。UIA 東京大会の成果となる他団体との連携活動の一環で、2か月に1回のペースで開催することを確認した。UIA 東京大会日本組織委員会（JOB）が予定通り解散し、JOB 事業を引き継ぎ次世代建築界の発展のために、一般財団法人「国際建築活動支援フォーラム」が設立された。

UIA 東京大会はゴールではなく通過点に過ぎません。50年、いや100年に一度かもしれないUIA 大会開催に立ち会うことができた我々の責務として、この大会の成果を次世代に継承していくことがこれからの活動の大事なミッションの一つになります。来年に控えた新しい公益社団法人としての覚悟を確認し、2011年度の挨拶といたします。

《(株)構想建築設計研究所》

UIA 東京大会を振り返って

幹事長
河村 大助



■ 今年度は、公益法人に向けて、定款の改定という大きな決定を下したと共に、長年のJIAの悲願であったUIA 大会を無事開催できたという、大きな1年だったと思います。

この関東甲信越支部でも定款改定に必要な会員の2/3の参加または委任状を確保する為にメール、電話での呼びかけなど当事の慌ただしさが今でも記憶に残っており、その結果、UIA 大会期間中の臨時総会が定数に達した形で開催され、無事に議案が採択されたことは執行部の一員としての責任が果たせたと思っています。

UIA 大会においても登録者の増員に向けての呼びかけをはじめ、大会当日は裏方として基調講演者、プレス対応等を慌ただしく行いました。振り返ってみると、逆に身近に世界的な方々の講演、インタビューを聴くことができた恵まれた役回りだったと気が付かされました。このように大会が成功裏に終わられたことは、会員の皆様、ボランティアの方々の努力により、なんとか乗り越えられた思い、関係者の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

あの震災から1年がたちました、昨年、ここで書きました、私が設計したいいくつかの被災した建物は、幸い今では、復旧し、利用されています。しかし、街を見渡せば、まだまだ震災の爪あととは深く、街がよみがえるのは、まだまだ遠い先のような気がしてしまいます。

そんな時期にこのUIA 東京大会が開催された意味をもう一度考え、この日本で採択された宣言「Beyond Disasters, Through Solidarity, Towards Sustainability (災害を乗り越え、連帯し、持続可能な未来をめざす)」を、どのように私たちが実現していくかを、これから模索していければと思います。

JIA の活動に参加することの大切さを再認識する。

副幹事長
堀越 英嗣



■ 3.11の大震災を経て、UIA 東京大会成功へ向かった激動の一年であった。その中でJIAとして次世代の骨格となるための重要課題である定款改正が決議された。この時、決議が成立するためにすべての会員に出席の依頼をするべく協力をお願いしたが、特に大都市を含む関東甲信越支部には多くの沈黙の会員がいることにも改めて気付かされた。私自身、地域会や幹事として参加する機会がなければまだその中の一人で在り続けたかもしれない。優れた力を持つ会員一人一人が集まっていることが会の資産である事を考えるとその多くが眠っている状況は決して好ましいことではないだろう。JIA 会員が自らの仕事を超えてより良き社会のために建築家として発言し、活動していることの理解が進めば建築家の意義も市民に認知されてゆくと思う。ある文化人類学者によれば人は論理的で等価な交換のみの世界では決して満足せず、贈与的関係即ち無償の行為が生存のために必要であると説いている。我々建築家は常に求められること以上の質の設計を目指し、頼まれてもいない周囲の環境を考えて設計している。幹事や委員の方々の献身的な活動を見るにつけ、JIA 活動は日常の論理的で等価な交換が求められる設計の仕事では得られない、無償の貢献の場であると気付かされた。建築家はその意味で、過ぎゆく市場主義経済に飲み込まれる存在でなく、人類の生存の喜びを持つ根源的職業であり、様々な活動に参加することの大切さを再認識している。

《ARCHITECT 5》

パブリックな責務

副幹事長
藤沼 傑



■ JIA 会員となり早くも5年です。中央地域会事務局から始まり、IPD-WG 委員、国際委員会委員、UIA2050年シンポ実行委員、昨年支部副幹事長を務めています。入会して改めて建築家の責務を認識しました。日本では官と民という二つの価値観が強く、市民の良識としてのパブリックが欧米と比較して弱いと感じていました。一級建築士はパブリックな資格であると漠然と考えていましたが、入会后、諸先輩方の意見をお聞きして、一級建築士はむしろ官の都合に近く、パブリックからは遠い存在であると気がつきました。私は学者ではないので、「官」「民」「パブリック」さらには「市民」がどのように違うのか上手く説明できません。あえて単純化すれば、「官」とは利害の調整、「民」とは生きる糧、「市民」とは人々の要望でしょうか。

建築家は未来を扱う職業です。資本主義は本来、投資により適切な未来を扱うことが出来ていました。しかし、将来への投資よりも現在価値を肥大化させる過度の競争により、従来の枠組みの中で未来を適切に制御できなくなっています。今現在の価値や利害は表層的なもので、本当の価値は過去を認識し、それを未来につなげていくビジョンにより、初めて現在を生きる価値が出てきます。過去や未来は、人々の根源的な良識がないと、正しく見ることはできません。官、民、さらには市民に対して、この良識を支援するのがパブリックな専門家集団ではないでしょうか。今回、JIA が公益法人となることについて、私は個人的にこのように解釈しています。

《(株)山下設計》

“Architecture”の本義

副支部長
西勝 郁郎



■明治27年、伊東忠太が“Architecture”の翻訳を『造家』から『建築』と改称し提唱したとされる。当時、学者であり建築家の彼は「建築の本義とは何か」との問いに困り、各分野の専門家などが考えても容易に解決されぬ永久の懸案であるとした。しかし一方で、当時に有って建築の根本義を追及する気運に衷心歓喜し、世に建築と言うものが存在する限り、急ぎ解決するよりも研究と議論の継続こそに意義があるとも記した。

その後“Architecture”の意味は、現在に至るまで正しく見直され定義される事無く、時として「建物」「Building」や「建設」「Construction」と混同して誤認されることも多く、建築史家でさえ諸説その解釈は分かれ、芸術性の有無のみで「建築」と「建物」の区別を解説する始末である。ましてや市民にはとても理解され難い時代が続いている。おおよそ、原理、文化、芸術上の概念とその行為など疎かに、それと対峙して物理的、工学的な意味をも持たされ、さらに迷走を極めていく。

JIA内では、「建築家資格制度」に関して、制度の将来あるべき本質論よりも、単に「建築家」の語を守り残すことにその価値を主張する会員もいるほどだ。もっとも、昨今の本部総会に参加する正会員の数は、昨年開催された臨時総会を除けば、通常は委任状も含めわずか2割強で有る。これでは、まともな議論をする環境に無いほど会員（建築家）の無関心は深刻だ。

仮に、伊東忠太が現状を見れば、建築家が“Architecture”の本義の探求を怠っていると嘆いたことであろう。

〈一級建築士事務所・西勝建築設計〉

地域会と支部の連携で足腰の強いJIAを

副支部長
赤羽 吉人



■3.11の余波が覚めやらぬ中で新年度を迎えましたが、もう一つの被災地長野県栄村への被災地支援事業で地域会活動がスタートしました。JIAが今後継続する災害復興支援活動は、社会との関わりの中で建築家に課せられた活動として捉え、それを市民と共に考え、市民と共に推進していくことが、JIAにとっても大切な活動になると思います。

私の主たる役割は県域の地域会からの意見を支部の意志決定に反映させ、地域会と支部間の意志疎通をスムーズにすることにあります。できるだけ多くの地域会員に支部の動きや意志決定の過程を見えるようにすることに配慮しています。

公益法人化に伴う定款改定の中で漸く地域会の存在が規定されることになりました。JIA活動の原点が地域会活動にあることは他言を要しませんが、地域社会において建築家の責務と役割がきちんと認められた状態を作り出すことが何よりも大切です。支部はそのサポートをする役割を担っており、双方が緊密に連携することで、足腰の強いJIAを生み出すことに繋がると考えています。

もう一つの役割であるUIA大会担当は無事に終了しました。震災後の開催続行に至る検討を経て大会の開催意義が明確になったことで結果的には主張のはっきりした大会になったと評価しています。今後はUIA東京大会を継承する事業を通じてその成果を共有していきたいと考えています。まずは今秋の建築家大会には全支部会員が横浜に参集しましょう。

〈(株)林魏建築設計事務所〉

自然の連環のなかで

副支部長
大澤 秀雄



■西洋式毛鉤釣りを趣味としています。ヤマメや岩魚を追いかけて、かつては年間50日近く溪に入っていました。その頃は1/25,000の地形図を頼りに広葉樹林を流れる溪に的を絞っていました。なぜ広葉樹林なのか、それは溪が豊かだからです。

広葉樹林は保水力が高く、降った雨は落葉に覆われた地表に浸み込み、養分をたっぷり含んで徐々に溪に流れ込みます。溪にはカゲロウやカワゲラなどの幼虫が沢山住んでいて、ヤマメや岩魚はこれらの川虫を食べて成長します。川はやがて海に流れ出て今度は河口の海を豊かにします。海藻や甲殻類が沢山育ち、これらを目当てに魚たちも集まって来ます。昔から海の漁師たちは川の大切さを知っていて、山の手入れを欠かさなかったと言います。

ところが広葉樹は木材としては使い勝手が良くありません。次第に伐採され杉や檜などが植林される様になりました。針葉樹林は一般に保水力が弱く、雨は土砂と共に溪に流れ込み時に濁流となります。養分も少なく溪は生物が住みづらい環境になってしまいます。大量の土砂を含んだ水が海に流れ込むと海藻や甲殻類も生育出来ず、海も死んでしまいます。私たちは自然の大きな連環の中に暮らしています。昨年の大震災を契機に、自然との接し方についての私たちの考え方が、大きく変わりつつあると感じています。今年11月に開催される2012 JIA 横浜大会では「江戸から学び、未来に繋ぐ」というテーマで、田中優子さんの基調講演とパネルディスカッションを予定しています。多くの皆さんの参加を期待しています。

〈(株)三菱地所設計〉

総務委員会

委員長：西勝 郁郎



■毎月1回開催する委員会では、入退会・休会審査と財務予算管理を中心に審議し、支部総会を始め会員集会、会員懇談会、新春の集いなど重要な支部会議を企画しました。特に9月の本部臨時総会(UIA東京大会前夜)では、本会の将来にとって極めて重要な「定款改定」の特別決議案があり、全国の本部総務委員と連携し出席回答が無いほぼ全ての正会員に総会参加の協力要請を行いました。また、支部内県単位の9地域会委員も集合参加する拡大総務委員会を2回開催しました。ここでは、6月末が納入期限の会費滞納者の扱いについて意見交換を行い、改善策として会費滞納一掃キャンペーンを実施しました。

次年度以降の課題としては、新たな公益法人移行に向けて「建築家憲章」、「倫理規定」および「行動規範(ガイドライン)」の周知を新会員必須とすべく対応を検討中です。

〈一級建築士事務所・西勝建築設計〉

アーバントリップ実行委員会

委員長：赤川 鉄哉



■ランドスケープ+巨匠+再生

アーバントリップ実行委員会では、東京ガス(株)殿の後援、(株)国際通信社殿の協力を得て、毎年3回の見学会を企画・実施しています。66回では、初めてランドスケープをテーマに取り上げ、長谷川浩巳さんをお招きし、建築とランドスケープのかかわりなどについてお話を伺いました。67回では、高橋航一さんをお招きし、首都大学東京などをともに巡り、最後には自作についてじっくりと語っていただきました。68回では、建築の保存再生に焦点をあて、「麴町、霞ヶ関、虎ノ門、日比谷界限」を散策しました。〈日建設計〉



第66回 館林美術館 第67回 首都大学東京 第68回 日比谷図書館

建築セミナー実行委員会

委員長：高橋晶子 + 高橋寛



■昨年度のJIA建築セミナーは3月11日の東日本大震災を受けて急遽プログラムを見直し、セミナー開始を若干遅らせるとともに、最初と最後2つの公開講座のなかで、それぞれ内田樹氏と内藤廣氏に大震災を経験した日本のあり方を踏まえての講演をお願いした。その他のプログラムにおいても大震災を意識しつつ、昨年度と同様にON SITE(現場)での建物や人との出会いを大切にしたものとした。2つの公開講座は満席の好評を得、それぞれのセミナーでも講師と参加者との活発な対応が見られたが、残念ながらセミナー参加者が少なく、今後の検討の必要性も感じられた。



伊東豊雄ミュージアム見学会

〈ワークステーション共同主宰：高橋晶子(武蔵野美術大学教授)+高橋寛〉

JIAトーク実行委員会

委員長：竹内 裕二



■昨年度の第一回は現在、若手のヘアーメイクアップアーティスト、アメリカ、ヨーロッパで活躍中のNoliさん。第二回目は、個人の産婦人科開業医として、NHKでも取り上げられた服部一志先生。第三回は直木賞作家で詩人としても活躍されているねじめ正一さん。第四回目は、映画監督の山田洋次さんに出会えた。監督の若い頃からの話し、小津安二郎監督の映画、黒澤明監督との交友、フーテンの寅さんの話し等、映像を交え、この場でなければ聞けない話しの連続であった。今期の第一回は6月20日(水)グラフィックデザイナーの原研哉さん。第二回は9月5日(水)、中国語翻訳家、加藤久佳さん。第三回は10月17日(水)、慶応義塾大学教授の白崎容子さん。第四回は交渉中です。どうぞ、ご来訪のほどを。

〈(株)JJ DESIGN〉

学生デザイン実行委員会

委員長：石原 智也



■先行して行われていた各地域会のコンクールが歴史を重ねるなかで、東京都学生卒業設計コンクールも第20回をむかえました。会場には過去の受賞者一覧と金賞作品も展示され、多くの方がこれまでの歴史に見入る印象に残るコンクールでした。協賛にお願いいただいた多くの設計事務所のみなさまや委員、JIA事務局のみなさまにあらためてお礼を申し上げます。3月11日の後、今年の卒業設計で何が表現されたか確認したいと思います。各地域



第20回東京都学生卒業設計コンクール 公開審査会場

会のコンクール日程は以下のとおりでした。

- 2/26 神奈川、2/27 山梨、
- 3/12 千葉、3/13 長野、
- 3/15 群馬、4/24 埼玉、
- 5/22 新潟、栃木は開催中止

〈NTTファシリティーズ〉

大学院修士設計展実行委員会

委員長：石田 敏明



■「大学院修士設計展」は2003年度よりWeb上で開催しておりますが、第9回目を迎えた本年は、作品数も33点(19大学)と前年比130%強の参加大学数および作品数となり、認知されつつある状況です。

展示は、各大学院専攻より選抜された優秀作品(1~2作品/専攻)をJIA関東甲信越支部のホームページ上に1年間掲載する方法を採っております。また第10回(2012年度)に向けて今までの全掲載作品(約230作品)を一室に掲載した記念作品集の発刊に向けて準備をしています。過去10年間の作品が時系列で閲覧出来るため、時代の背景をとらえたデザインの傾向が概観でき、アーカイブとして活用出来る冊子となります。今後は、各大学と協力関係を築き、大学院修士設計の位置づけを明確に行きたいと考えています。

〈公立前橋工科大学 教授〉

広報委員会

委員長：河村 大助



■今年度は、UIA 東京大会という JIA が長年にわたって取り組んできた大きなイベントが開催され、更に、公益法人移行に伴う定款の改定が総会で決定され、大きなイベントに係る広報活動とともに、継続して活動している地域会、部会の活動もできるだけ会員の皆様に広報するよう心がけてまいりました。

今年度の主な活動を報告します

- ・定期の委員会を1回/月開催し、Bulletin、HP（ホームページ）のワーキングをそれぞれ1回/月開催してまいりました。
- ・広報誌「Bulletin」6冊、アンニュアル号1冊を刊行いたしました。
- ・HPは「Bulletin」のアーカイブとして利用していただくと共に、支部の活動をタイムリーにアップしてまいりました。
- ・メールマガジンをできるだけタイムリーに逐次配信してまいりました。

最後に、東日本大震災から1年がたち、少しづつですが、復興に向けて動き始めています、その復興に向けての JIA の活動を継続して広報してまいりますので、よろしくご協力願います。

〈NTT ファシリティーズ〉

交流委員会

委員長：鈴木 敏彦



■交流委員会は正会員 28 名、賛助会員 166 社から構成され正会員と賛助会員の交流を目的として、業種毎のグループ活動と委員会全体の活動を行っています。2011 年度はグループ活動として安藤勢津子氏、榎井論平氏、土田恭義氏など多彩な講師をお招きしたセミナー、旧島津公爵邸などの施設見学会、賛助会員企業（フジモリ産業、三菱マテリアル建材）の工場見学会等を行いました。全体活動としては UIA 大会への協力をはじめとしてフレンズカップ大会、広報活動、建築相談委員会との共催による研修会などを行ってきました。2012 年度の定款改定により賛助会員は法人協力会員に名称変更が行われます。今後とも、支部の財政のみならず活動にも大きく貢献している賛助会員制度へのご理解を賜ると共に、本委員会の活動へ多数の皆様のご参加をお待ちしております。

〈大建設計〉

建築相談委員会

委員長：青野 達司



■昨年度5カ所の建築相談室で合計360件の相談を受け、54件の現地調査に相談員を紹介しました。通常の相談以外に、東日本大震災に関し災害対策本部から仙台市役所の住宅相談の窓口相談員の派遣依頼があり、5月に相談員11名を延べ25日派遣し、88件の相談を受けました。これについては、9月と本年3月に行われた支援活動報告会で報告しました。震災関連では5月に液



シンポジウム「修復しながら住み続ける家」

状化対応セミナー、本年2月にシンポジウム「修復しながら住み続ける家」を開催しました。エネルギー問題についてのテーマを含め、4回の研修会を行いました。

〈青野設計事務所〉

保存問題委員会

委員長：左 知子



■ドクター事業：文化庁からの委託事業として日本建築学会のもとで被災文化財の調査に協力。各地域会などの熱心な参加を得て述べ300人以上の JIA 会員の協力があつた。次年度へ事業として引き継がれる予定。

■保存大会：開催地の大谷石を題材に、栃木地域会の2年の準備を経て開催。大谷石建造物の継承に関わる問題点が挙げられ、今後の進展に一石を投げた大会と思われる。

■要望書：解体される建物だけでなく、事前事後の建物についても対象範囲とし、その影響力を見据えながら審議を重ねて5件提出。

■委員会パンフ：行政、他団体などに当委員会の活動を紹介するために、活動趣旨、活動内容、経過をまとめたものとして作成、印刷。

■議論合宿：8月に入間市で、さいたま・栃木両地域会の会員も参加しての1泊合宿。3セッションに分けた議論をおこなう。

〈左知子建築設計室〉

支部建築家資格制度委員会

委員長：近藤 昇



■当委員会では毎年3月に委員会を開催し新規登録建築家申請者、更新申請者、再登録申請者の提出書類審査と更新要件等を確認した上で、支部認定評議会への審査資料作成を行っています。確認は委員のダブルチェック以上で行われています。疑問点についても委員全員で討議を行った上で結論を求めています。又、支部認定評議会では報告に基づき評議員、出席者全員による審査が行われています。

2011年度は実質対象者238名中193名が確定しました。更新申請時に更新要件が満たされていない45名は、更新手続き期限までに満たされた場合は支部建築家資格制度委員会が確認の上、更新を認めるものとして支部認定評議会へ報告提出を行いました。登録建築家は実務訓練制度で登録建築家を目指す JIA 会員以外の方々の指導建築家として必要な制度となっています。多くの方に登録していただきたいと思ひます。

〈近藤総合計画事務所〉

アーキテクト・ガーデン 実行委員会

委員長：柳 学



■アーキテクトガーデンは今年は6月に行うこととなり、その準備を進めてきました。今年は従来型のイベントではなく、情報集約、発信型のイベントとして行う予定です。会期は6月15日建築家の日をまたぐ、6月の約1ヶ月間とし、その間に各地域会、部会、委員会の例年の催しやワークショップをこの「アーキテクトガーデン月間」に集約し、大きな一つの括りとしてのイベントとする計画です。



HPアドレス
http://www.jia-kanto.org/AG2012/

各々の単独イベントでは、集客や外部への情報発信が不十分であることを、連携した一括りのイベントとすることでそれらを補い、公益法人化に向けて、JIA の多彩な活動を一般市民に知らしめることを目的に開催したいと考えています。

〈柳学アーキテクト〉

顧客支援システム委員会



■「あなたと建築家を結ぶサイト・アーキテクトファイル」は Web 上の関東甲信越支部の公式建築家紹介システムです。システム会員（登録建築家）は52名を数えています。建築家面談をした物件が5件ありますが、実施には至っていません。登録はホームページより随時行うことができ登録費用を頂いています。当システムはこの会費によって運営されています。登録した建築家は HP 上に作品やプロフィールが掲載され建築希望の方が問い合わせフォームより建築家に面談を申込、事務局が段取りをします。面談にあたり委員会より、面談の際の注意事項、心得などを説明します。委員会では、日本建築家協会会員の倫理と品位を持って対応することなどを記載したシステム会員規約・規則があります。規約・規則にのっとり委員会運営、システム運営をしています。

UIA 東京大会支部推進委員会

委員長：赤羽 吉人



■大きな達成感を得た

支部からの参加登録者数1,163名、寄付金・支援金2,900万円、ともに目標値をクリア。大会全体で5,000人を超える参加者となり、大会収支も好結果を残した。3月11日の大震災により、テーマ設定を含む大会開催意義の見直しを行ったことで、却って UIA 東京大会の位置付けが明確になった。

最終的に支部内の足並みが揃ったことは大きな成果で、街歩きは4



地域会に留まったが、大会運営支援要員として延べ33名を派遣した。連続シンポジウムは JIA 本部事業に移行し支部は実施に協力した。

〈(株)林魏建築設計事務所〉

JIA 横浜大会実行委員会

委員長：上浪 寛



■昨年7月、2012年の JIA 全国大会を関東甲信越支部で開催することが急に決まった。UIA 東京大会準備が佳境にある9月から準備委員会を立ち上げ、大急ぎで会場、会期を決定し、年末には大会テーマの決定、1月末にはレセプションパーティーの概要、2月末には基調講演の概要を決定した。全国 JIA 会員にプログラム企画参加の呼びかけを行い、3月末には37件のプログラムが集まり、中身の濃い大会になると期待される。テーマとして「共に超える」を掲げ、日本全体がパラダイムシフトの必要性を実感している今の社会を建築の専門家として何が出来るか、市民と共に考え、共に超えて行こうと考えている。過大な賛助金による大会運営を避け、身の丈にあった予算での運営を心がけ、今後の全国大会の規範になるような新しいスタイルの大会を目指している。

〈(株)構想建築設計研究所〉

委員会一覧 (2011 年度)

| | |
|--------------------|----------------|
| ● 総務委員会 | 委員長：西勝郁郎 |
| ● アーバントリップ実行委員会 | 委員長：赤川鉄哉 |
| ● 建築セミナー実行委員会 | 委員長：高橋晶子 + 高橋寛 |
| ● JIA トーク実行委員会 | 委員長：竹内裕二 |
| ● 学生デザイン実行委員会 | 委員長：石原智也 |
| ● 大学院修士設計展実行委員会 | 委員長：石田敏明 |
| ● 広報委員会 | 委員長：河村大助 |
| ・ Bulletin 編集 WG | 編集長：湯浅剛 |
| ・ ホームページ WG | 主査：中澤克秀 |
| ● 交流委員会 | 委員長：鈴木敏彦 |
| ● 建築相談委員会 | 委員長：青野達司 |
| ・ 対市民建築相談室 | |
| ● 保存問題委員会 | 委員長：左知子 |
| ● 苦情対応委員会 | 委員長：石原直次 |
| ● 支部建築家資格制度委員会 | 委員長：近藤昇 |
| ● アーキテクト・ガーデン実行委員会 | 委員長：柳学 |
| ● 顧客支援システム委員会 | 委員長：松永基 |
| ● UIA 東京大会支部推進委員会 | 委員長：赤羽吉人 |
| ● JIA 横浜大会実行委員会 | 委員長：上浪寛 |

JIA 神奈川地域会

代表：青木 恵美子



■ Think Globally Act Locally @神奈川

東日本大震災直後の2011年4月、「Think Globally Act Locally @神奈川」の活動指針で、JIA 神奈川8代目代表として就任致しました。大震災からの教訓として、経済発展や科学技術向上を目標に突き進んできたことの反省があります。「生きる価値観」を見直す中で、私たち建築家は何を指すべきか？そのために2011年度JIA 神奈川の会員が、地域に根ざすコミュニティーアーキテクトとして3つの活動方針を軸にするために、3つの研究会を立ち上げました。まちの伝統を守り、人々が誇りと持てる「らしさ」のあるまちづくりを創造する為に、まちづくり保存研究会。持続可能なストック型社会を構築する為に、再生と自然との共生など古くて新しい建築生産システムを考える、再生保全研究会。また、「まち、建築」に暮らす人が自分らしい暮らしを創造できなければいけません。そのために社会を意識しはじめる時期のこども達の住教育として、住育研究会を立ち上げ検討を重ねてきました。その他、建築相談室、かもめの夜話。また2年連続逗子市のプロポーザルコンペのアドバイザーとして地域のまちづくりに、市民と行政の間に専門家として関与しました。さらに、卒業設計コンクールと共に、1年間の活動の発表の場として2月に横濱建築祭 CROSS×CROSS を行い、多くの市民にJIA 神奈川の活動を見て頂きました。今秋には全国大会が横浜で開催されます。是非11月にお会いしましょう！

〈(有) A・Aプランニング〉

JIA 千葉地域会

代表：櫻井 修



■ 今こそ建築家の職能発揮を

東日本大震災の発生により日本中が“本気”になりました。当会も震災支援及び災害に関連する確かな情報確認の場をつくと共に、職能の市民認知・業務環境の改善活動を行い、旭市、千葉市、互理町における災害対応支援・判定・相談業務に於いてその職能を発揮できました。併行して、建築設計6団体会員が県下全54市町村を訪問し、“生の言葉で顔を合わせて”発注内容の改善について意見交換ができたことは、意義のある行動でした。今後もこうした対話・情報交換を継続したいと存じます。24回を迎えた「千葉県学生賞」に加え、第2回「千葉県建築展」も、本年は展示・見学・講演等が千葉・大多喜にて広域・拡大開催され、多方面よりの参加が期待されています。特に大多喜町役場新庁舎の増設に伴い、既存庁舎が改修保存され、その保存の在り方については、支部・地域会連携による保存問題委員会の活動が結実したものと言えます。「旧検見川送信所」においても、引き続き保存活動を支援する所存です。当会では、地域活動の多様化、複合化により、会員の所属確認・明確化や運営費の確保が急務となっています。今後も各会員及び関連団体との連携・協働、建築家の職能発揮により千葉県のまちづくり・住環境の向上、地球環境の維持保全に寄与する所存です。

〈桑田建築設計事務所〉

JIA 埼玉地域会

代表：三浦 清史



執筆者：鶴崎 健一

■ 展望の見えない地域会と JIA

私がJIAに入会したのは2006年10月で、比較的新しい会員です。JIAは私より優れた人材が多いはずなのに副代表となっていますのは、旧会員にとり、存在価値のある魅力的な地域会ではないのでしょうか。その為に役員の人材不足が大きな原因と考えられます。公益法人化になると地域会が会として法的に位置づけられる可能性があり、活動は原則として承認を得ることになり、規定により制限され、事務手続も含め、厳格化することとなるでしょう。その為、役員会議で会の解散の話もありましたが、現在のところ続けようということになりました。しかし、このままの人材不足で存在価値の少ないまま続けたところで無意味と感じます。私の建築感ですが「建築はそれぞれに意味があり、必然的に残されるべくして残る。」必要とされないものは残る必要はないと思います。「会の存在」も「建築の保存」に似たところがあると感じます。私が地域会に期待したいものは「建築家同士の良きライバル及び仲間として自分を向上させられる情報交換の場の存在であり、建築の素晴らしさ、建築家の存在の必要性を一般の人たちに正しく理解され定着させることを目的とする」です。JIA 本会では公益法人化に努力しているようですが、建築家協会を否定するような登録建築家制度同様、個人事務所にとっては意味不明な努力にすぎません。建築家は本来個人で活躍するものであり、法人で活躍するものではありません。又、法人化自体が国策で法律同様、一方的倫理より民を縛る手段にすぎないもの。そのようなものに労力を使うことはありません。建築士は法の下に存在しますが、建築家は法だけに捉われない自由な思想をもち活躍できる聖域的職能であるべきです。現状を見る限りJIA 埼玉という地域会活動には、それ以上の法律的な位置づけは余計な事。任意団体に近い状態にて建築家として自由性の高い、高品位な活動に期待したいものです。

〈ツルサキ設計〉

JIA 茨城地域会

代表：天 茂彦



■ 茨城地域会は「建築・建築家が地域社会にできること」を掲げ、地域から社会活動への交流を広めています。平成23年3月11日に未曾有の大地震にみまわれ、被災地では大きな負担を強いられた毎日だと思います。茨城地域会からも、身近なところで建築家としての社会活動の推進から、茨城県内災害特別調査、9月にはJIA文化財ドクター制度にて、宮城県村田町、福島へ調査員として派遣され、被災文化財建造物の復旧支援活動事業に関わり、震災で被害を受けた現状や原因の詳細調査を行いました。調査に携われたことは、建築家として大きな成長と発展に繋がったと感じております。「茨城の建築家展2011」が平成23年11月26日～12月9日の期間開催され、「建築・建築家が地域社会にできること」から街の活性化に繋がることを期待しながら、建築の魅力を感じることにより、幅広い交流の輪を広げることが出来ました。新しい発見では、平成23年度活動事業の一つである「茨城の市民に愛される建築20選事業」から20選が選ばれました。第2回地域サミット・エキスカッションにて「いばらきの未来に残したい建築見学会」が開かれ、茨城の愛される建築の世界観を知って頂ける、良い機会となりました。今後も、建築・建築家としての作品を生み出し、多くの方に感動を与え、奥深い魅力を表現出来たら、新たな活動の発展に続くのではないかと感じています。

〈天建築設計事務所〉

JIA 栃木クラブ

代表：慶野 正司



■ 今年度、栃木地域会事業は学生との宿泊研修（スクールin栃木）、県内学生の卒業作品の表彰（JIA 栃木クラブ賞）の2事業を恒例事業として開催し、さらに昨年震災のため中止となった保存問題栃木大会を実施いたしました。

恒例事業は2事業共、建築を志す学生を対象に地域文化や建築社会との交流を通して学校では得られない研修を促す機会として実施しております。10月22日、23日に行われたスクールin栃木では、『益子・祭り・雑貨・民芸 濱田庄司スタイルに学ぶ益子再発見』をテーマに街歩き、ワークショップを行いました。また栃木クラブ賞は、3月に作品の展示会を行い、最優秀賞審査会を通して、公募枠より3点、学校推薦枠より5点の中から、全国学生卒業設計コンクールへの出展作品を選出いたしました。

そして何より、今年度も栃木県で開催することになり2年越しになりました保存問題栃木大会では、「大谷石の可能性を探る」をテーマに、残念ながら震災で見学できなくなった所もありましたが、昨年のスケジュールを調整しつつ開催いたしました。当日はあいにくの天候ではありましたが、スケジュールに大幅な遅れもなく2日間で計116名、またシンポジウムでは一般の方を含め100名の参加があり、大盛況のもと終了することができました。地域会メンバーも大会運営を通して、大谷石文化への可能性や私たちの責任を再認識し、有意義な大会となりました。ご参加くださいました皆さん、ご協力頂きました保存問題委員会の皆さん、支部事務局の皆さんに感謝し報告いたします。〈(有)アトリエ慶野正司 一級建築士事務所〉

JIA 群馬地域会

代表：松村 和雄



■ 今年度は未曾有の災害で始まりましたが、できる限りの協力をすることを地域会総会で議決、燃料費、宿泊費を補助することにし、本部災害対策委員会の要請による宮城県への会員派遣には、3月20日から28日まで、名取市、東松島市合せて延べ30名が参加し、活動中の事故やケガもなく無事終了することができました。

またUIA大会への参加にも参加費補助を決定、会員、賛助会員を含めて31名の参加となり、これも目標を達成することができました。継続事業の、学生卒業設計コンクールを2月22日に実施、審査委員長を上浪支部長にお願いし、鈴木大幾さんの「街の記憶、人の記憶」を金賞に選定しました。

北関東甲信越学生課題設計コンクールは、今年度は実出来ませんが、来年度から支部事業の一環となる予定ですので、開催地の選定、コンクール実行委員会の立ち上げ等が必要となり、今後各地域会の代表、実行委員には奮闘していただき、保存大会のような形式にしてこのコンクールを実りあるものに育て上げることが出来れば、当初の目的（学部卒業生への後押しと他大学との交流）を達成できることでしょう。

群馬地域会会員のCPD単位取得のためのセミナーを5回開催し、登録建築家としての年36単位取得の一部補間をし、登録建築家への申請をしやすくすることを目指して、地域会としてできる限りの施策を行っています。

〈松村建築工房〉

JIA 山梨クラブ

代表：長田 孝三



■ 昨年度、地域や人との共生の大切さを想い、行動に生かそうとしていたさまざまな人・団体・地区地域とのかかわりを通じ、建築家の職能の重さと負っているものの大きさを考えさせられた1年でした。

山梨地域会では、以前より木造住宅の耐震化促進のための活動を行っていますが、昨年度は県内3カ所で開催しました。大震災直後ということもあり、各会場とも関心が高く多くの方々の参加をいただきました。2012年度は、耐震診断・補強計画も県市町村の補助金対象になり、さらに耐震化率の向上を目指したいと考えています。

高校生卒業設計コンクールも、10回を数えた活動となっています。最近では、受賞者と仕事上で出会うようになりました。近い将来JIAの会員として活動してくれるよう期待しています。

甲府市中心街活性化支援事業として、甲府商人塾ヘッドバイザーを派遣、活動案の提案や助言、ミニコミ誌「まちなかおもてなしかわら版」を



卒計審査風景

2カ月に一度通常1000部、イベント時は2000部発行しました。その他、UIA 東京大会へは6名が参加しました。多くの皆さまに支えられ昨年度も活動できたこと感謝申し上げます。

〈(株)イズ〉

JIA 長野県クラブ

代表：赤羽 吉人



■ 地域社会と共にある JIA 活動

JIA 長野県クラブの構成員は正会員65名、賛助会員56社。総務・広報・出版・会員・事業・まちづくりの6常設委員会とUIA大会準備特別委員会により構成。地域会活動の主眼は地域社会への情報発信です。昨年12月「信州の建築家とつくる家」第8集を刊行。会報の発行は年4回、HPの充実にも取り組んでいます。講演会、卒業設計コンクール、会員作品展で構成される建築祭を3月に開催。会員の研鑽と交流を兼ねて研修会や見学会、技術交流会、先輩会員と若手との交流集会、街並みウォッチングを実施。建物の保存要望活動にも取り組んでいます。UIA大会には会員33名を含む66名が参加しました。CPDプログラム41単位を提供。長野県北部地震では25名の会員が栄村災害支援活動に従事しました。他会と共同での地域活動です。

〈(株)林魏建築設計事務所〉



小布施町での街並みウォッチング風景



長野県学生卒業設計コンクール審査風景

JIA新潟地域会

代表：塚本 久志



■新潟ではようやく桜が満開となりました。新潟地域会では2011年度会員の為の活動として、賛助会員による省エネ商品等のプレゼンテーションをほぼ毎月行ってもらい、現場での活用について話し合っています。UIA大会の参加者は9名でしたが、得ることの多い大会でした。春には、第13回県内大学卒業設計コンクールが例年通り行われました。初夏には、第14回建築セミナーを小嶋一浩氏を迎え行いました。学校建築を中心に作品紹介とエピソードを交えた講演には、200名を超える聴衆の参加がありました。その中には、学校や行政担当者も多く、地域の学校建築の取り組みに、刺激を与えてくれました。秋には、第15回建築セミナーをJIA新人賞の中村拓志氏をむかえ、「ふるまいのデザイン」というタイトルで、講演がおこなわれました。聴衆には学生や若者が多く好評でした。3月には、毎年群馬県で行われていた課題設計コンクールの新潟プレ大会を行いました。高校4校、大学4校の生徒と先生、JIAメンバーで各作品の講評を行い交流を深めることで、建築を愛する仲間が増えることを願っています。



第15回建築セミナー
〈DESIGN空〉

JIA中野地域会

代表：近藤 弘文



■中野地域会は、中野地域での建築文化を向上させるような市民交流を、長期的視野で模索することを目指した。11月には、大宮司メンバーほかの準備により、事務所協会との共催でバス見学ツアーを実施。多くの区民の方々に参加いただき、小西メンバーのご案内で栃木県大谷地区へ。満員バスの中で、区民の方々と建築文化について議論する等の交流ができた。また中野区耐震促進協議会で齋藤メンバーが代表となり、「耐震フォーラム」を関連団体と共同開催し、市民向け展示、起振車体験会などを実施した。UIA大会では、「空間ワークショップ」の英語版カラーポスター（A1変形）を作成し、会場で配布して広報活動を行った。ほかに、中野地域会連絡網の作成、メンバー事務所での交流、世代間の知識の伝達活動、地域会運営マニュアル作成、休眠会員への呼びかけ活動などを目指したが、一部の実現にとどまった。中野地域会は他の地域会に比べて歴史も長いですが、アクティブメンバーの固定化、高齢化が進む。これからは、アクティブ会員の増加、世代交代が課題となると考えている。

〈(株)イデア建築研究所〉



大谷石採掘場整地を見学した



新宿区立落合第一小での空間ワークショップ

JIA三多摩地域会

代表：高田 典夫



■まちづくりはひとつから・・・本年度の活動としては、武蔵野市立小学校や東大和市中央公民館で、例年行なっている空間ワークショップに加え、八王子市立小学校や杉並区内の幼稚園での、空間ワークショップを実施し、より広い地域、年齢層へ活動をひろげることができ、地域との連携を図る活動を実践している我々にとっては、大きな意味があるのではないかと感じている。地域共に行う建築・住環境教育は、そこに住むひとを取り巻く、いろいろな事象に敏感に反応できる人を育てていくことが必要である。いろいろな視点で街を見るための、基礎知識としての建築・住環境教育は、空間ワークショップを通してその端緒についたばかりで、その効果を見届けるのは、これから先長い時間がかかるかもしれないが、少しずつでも続けていくことが必要であろうと考えている。

〈アトリエテン・実践女子大学〉



中瀬幼稚園土曜学校での空間WS



八王子市立由井第二小学校での空間WS

JIA杉並地域会

代表：遠藤 勝勲



■2011年度も、土曜学校を中心にした活動を行いました。毎回、30名～40名の方々の参加があり、常連の方も増えました。今年は「地域をつなぐ」をテーマに区内の他団体と連携して5つの講座を企画しました。

- ・第1回 5/28 「懐かしさが魅力の街並み散歩－松庵界隈と一樹庵を訪ねて－」 講師：杉並たてもの応援団（大嶋信道他）
- ・第2回 7/23 「ひとつの住宅ができるまで－スカイハウスと木組みの家に見る、建築家と職人の仕事－」 講師：遠藤勝勲 建築家・都倉孝治 棟梁
- ・第3回 9/17 「建築と子どもたち－創造力を育てる環境教育の現場－」 講師：稲葉武司 建築家・土谷稔 イラストレーター
- ・第4回 11/26 「シェアする暮らしの豊かさとは？－地域とつながりながら年を重ねるために－」 講師：狩野三枝 NPO コレクティブハウジング社理事
- ・第5回 12/1/28 「まちづくりの視点－杉並の10年後の姿－」 講師：日端康雄 慶応義塾大学名誉教授・関口太一 都市計画設計研究所代表

また、恒例の杉並アーバントリップは、TDA: 景観デザイン支援機構とJUDI(都市環境デザイン会議：全国組織で400名会員)との共催のシンポジウムに参加しつつ、6月18日(土)19日(日)に松本を訪問しました。楽しみながら、遠方の地域会との交流を図る貴重な機会なので、今後も続けてまいります。

〈遠藤勝勲建築設計室〉

JIA新宿地域会

代表：菊地 守



■ 昨年の震災以降、代表・菊地が耐震総合安全機構（JASO）の会員として、5回の東北調査旅行に参加しました。これらの成果は、JASOから数冊の報告書にまとめられ、出版されています。月例会の折にも、出席会員にスライドを用いて報告会を実施しました。「新宿を知ろう」の一環として、荒木町を中心とした企画が、2012年4月14日(土)に実施されました。「四谷・荒木町の歴史文化講演と街歩き」プロローグ：新宿歴史博物館（設計：岡田新一）及び展示見学第1部：「四谷・荒木町の歴史講演会」「四谷の歴史を概括する」今野慶信（新宿歴史博物館・学芸員）「四谷荒木町の変遷」鈴木洋一（とんかつ鈴新・亭主）「四谷荒木町の景観について」新井拓雄（新宿区景観と地区計画課主査）「四谷荒木町の魅力」カルミネ・コッツオリノ 第2部：「荒木町街歩き」（1時間程度の散策、地元会員が案内）エビログ・親睦会：荒木町「光楽亭」（旧料亭・宮さ）建築家以外の一般の方々の参加もお願いすることとなり、延参加者数も70名を超える規模となりました。



荒木町モンマルトル

〈アーキタイプ建築設計事務所〉

JIA城東地域会

代表：伊藤 政広



■ 準備期間を含め最も多くの時間を割いた、UIA 東京大会の街歩きツアーは、海外5カ国7名を含む参加者で実施され、メトロを乗り継ぎ、江戸文化を巡る企画の始めは、定番浅草寺、江戸の繁華街を歩き、元禄創業の「江戸からかみ」東京松屋を訪問、木版刷りを体験し、作品はお土産です。深川江戸資料館では、復元された江戸末期の町並みに迷い込み、江戸の暮らしを感じとり、最後は清澄庭園、池に面した「涼亭」和室で、参加者が懇談してツアーを終えました。

大通りの奥の小さな洋館が、根岸街歩きで気になっていました。それは、明治期の外務大臣陸奥宗光が6年過ごした居宅で、その後「ちりめん本」と呼ばれる外国向けの美麗な本の出版者が入手し、今もその御子息らが住んでいる家であることを地域団体の主宰者から聞いたのは、自宅を設計した会員が城東地域会のメンバーであったからです。その価値を地域に知らせようと「西宮邸



ちりめん本

（旧陸奥宗光邸）とちりめん本の講演会を行い、小学校体育館400席が埋まる関心を生みました。

これからも城東地域会は、街と人に入り込む活動を続けます。

〈交建設計〉

JIA文京地域会

代表：野生司 義光



執筆者
文京地域会事務局 河野有梧

文京地域会では、建築士会文京支部、建築士事務所協会文京支部と3会が連携し、[文京建築会]を立ち上げ、主たる活動の場としています。2009年4月に、主として建築士会文京支部と共による活動を開始し、2011年12月には建築士事務所協会文京支部との連携も開始されました。これまで以上に、建築・まちづくりに関連した職能の向上を目指すとともに、会員相互の交流と親睦をはかり、その社会的責任に基づき、地域社会に貢献することを[文京建築会]の趣意としました。そこでは、建築家・建築士の目を通して「文京ブランド」を可視化・顕在化し、より良い「文京らしさ」の醸成に寄与すること、あわせて、会員以外の建築人の方々や区民、行政、専門家の皆さんとも、文京区という地域を舞台に共に活動し、交流を深めたいと願っています。立ち上げ以降、様々な活動が行われ、現在も継続・展開されています。

■ 文京区見どころ・絵はがき大賞

文京区には多くの「美しい自然景観」や「優れた都市景観」が存在します。そうした魅力的な文京区を紹介する「手作り絵はがき」を公募し、優れた作品を選び、表彰しました。文京建築会が主体となり、行政とも協働し、地域の人のつながりある活動の場としています。「第2回」も開催し、地域と連携した活動を続けております。

〈河野有梧建築設計室〉

JIA渋谷地域会

代表：三井所 清典



執筆者
(事務局長) 竹中一則

■ JIA 渋谷の2011年度と言えば、UIAの「渋谷探索トレッキング」- Shibuya Discovery Trekking - という街歩きでした。前年度からの準備に続き、4月に入って、チラシや参加者向け英語版ガイドの編集・作成といった作業を進め、6月には、リトアニア日本建築展に来日していた、リトアニアの建築家10名を案内する機会に恵まれるなど、準備段階でも稀有な経験が出来ました。コースは、表参道から明治神宮、代々木体育館、渋谷駅界隈、代官山等を巡る6時間半の行程。参加者は14カ国23名。ツアー最終地の横総合計画事務所では、横文彦渋谷地域会顧問が出迎えて下さり、天候にも恵まれ、事故もなく笑顔で街歩きを終えました。渋谷地域会ホームページでは、「旅行者のための渋谷ウォーク」として、コースの案内をしています。英語版も公開しており、ホームページの充実も図りました。防災研究も継続しており、4月には、東日本大震災に関する緊急情報交換会



渋谷探索トレッキング 明治神宮にて

を開催しました。7月に、東京建築士会港会と講演会を共催するなど、他団体とも連携しました。2012年度は、さらに充実した活動を行いたいと考えています。

〈レーモンド設計事務所〉

JIA 世田谷地域会

代表：小林 正美



■今年度で4年目となる小学校でのワークショップ活動は、新たに1校（松ヶ丘小学校）増え、3校になりました。来年は、もう1校（山野小学校）増える予定です。

川場村の修景調査は、3会員が手分けして、エネルギー、福祉、医療、交通、景観、観光、むら歩き視点で、現地調査を行なうと共に、7月には現地で合宿を行いました。また、副村長、むらづくり振興課々長と、意見交換を行いました。その後、村が森林再生による、スマートドレッシング計画を発表したのを受け、新たな活動計画を練り直して行きたいと考えています。

12月に、「つなげてゆく建築・まちづくり考シリーズ」の第一弾シンポジウム、「公共建築のこれから～とことん使う知恵～」を開催。区から共催の協力をいただき、区長をお招きして100名近い参加者が有りました。多くの区民から、楽しく有意義な会であったとの感想をいただきました。その後、区の施設営繕課と話し合いを持ち、使い続けるための提案を、区の施設をモデルにして一緒に考えましよう話し合い、地区会館の図面をいただきました。来期から本格的な作業に入れるよう、会員にどのように進めて行くか、アイデアを募っています。

東日本大地震による建物の被災調査の依頼を受け、会員が数日間被災地に行き、建物の被害状況の調査活動を行いました。

その他、区の災害復興プログラム研修への参加。安全安心マネジメント計画への参加など、みんなで手分けして活動した1年でした。

〈文責：黒木実 / 世田谷地域会事務局〉

JIA 中央地域会

代表：山本 浩三



執筆者：藤沼 傑

■ 本年は、昨年からはじめた会員の作品集を出版する企画を進め、2012年4月に出版します。各会員が、どのような活動をしているかについて、中央区の街づくりのなかまたちと、どのように協働しているかに視点をあてて紹介することを、目的としていました。この作品集の出版は、震災の影響で半年以上遅れました。コミュニティに視点をあてましたが、実際は、中央区の建築家の殆どは在勤者で、かつ、区外の仕事をしています。今回の震災を受けて、中央地域会の会合では、このような現実に対して、少なくとも二つ問題があると議論しています。一つは、今回の震災で明らかになった、帰宅難民の問題です。在勤者建築家も帰宅難民の一員であるので、自分たちの問題として取り組む必要があります。これまでの都心の防災計画において、これほど多くの帰宅難民が、都内に泊まるということ、想定していなかったと言います。都心の事務所ビルの計画において、こうした帰宅難民に対して、どのようなしつらえが



必要か、建築家の知恵が必要です。もう一つは、高層住宅問題です。中央区の4割は月島に住み、その殆どが高層住宅です。今回の震災で、高層住宅は建物としては震災に強いが、高層生活は脆いということが、改めて認識されました。そこに、在勤者建築家が、数少ない在住者建築家と共に、地域活動を展開する役割があると認識しています。

〈(株)山下設計〉

JIA 千代田地域会

代表：赤堀 忍



■メインの活動はUIA大会への参加と、神田淡路町調査の出版、地域景観に関するものでした。東日本大地震に関連して、建物調査に会員が参加したこと、人材バンクへの登録で、人的資産の提供を呼び掛けました。UIAプレ・イベントとして、リトアニア「East・East 03」の開催に伴い、リトアニア建築家もてなしツアーと交歓会を開催。UIA2011東京大会では、9月28日に東京国際フォーラムプラザ地上広場につくられた仮設ドームで、シンポジウム「素材を通して持続可能な環境と暮らしの質を探る・エネルギー・環境・生命・Gross Human Happiness」を開催し、翌日、神田まちあるきと丸の内ツアー、おもてなしパーティーを実施。

調査報告書「神田淡路町すまいの記録」が、約40ページ、1000部で出版できました。ご協力いただいた再開発組合事務局、千代田区、JIA、その他協力者に配布。また「神田淡路町すまいの記録を語る会」を開催し、調査関係者・地元住民を招いて、神田淡路町について話し合いました。この書籍は、アメリカ議会図書館に収蔵されることになりました。

他に、千代田区卒業設計展を九段生涯学習館で開催。AIU見学会を、保存委員会と合同開催。以前要望書を出した博報堂は、開発業者・設計者から計画進捗状況の説明があり、今後は情報公開して、行政・区民・地域会が意見交換をする場をもつよう提案しています。

〈芝浦工業大学〉

JIA 城南地域会

代表：松本 裕



■ 私供、建築家協会の前進である全国建築士会が設立されたのは大正3年（1914年）、歴史の変遷を経て2年後の2014年は曲がりながらも、当協会は大きな節目の満100年を迎えようとしております。1887年当協会は組織変遷の大きな仕切り直しを施し、現在に至っている。社会、経済の状況が大きく変わろうとも、一貫して職能の生き方を日夜奮闘されてきた諸先輩の足跡は会員一同大事に心に留め、原点に戻る勇気が必要と当地域会一同は認識しております。

建築家憲章（昭和56年制定）は私供協会会員の規範を端的に表しており、当地域会として、敢えて公益法人化に反対したのも憲章の主旨の通りからであり、又、UIA等における「利害の対立」「利害等の開示」等も、当然職能の普遍性と理解しておりますが、会員一同の理解と賛同に至る経緯が、十分に論議を尽されていないことは誠に残念であります。

現在、当地域会は6年目の活動に入っておりますが、アーバントリップ、地域散歩、行政との交流、地域フォーラム、茶話会等、活発に活動しております。

昨今は地域住民との交流に向けて行政を交えて積極的な活動を模索しております。尚、先般大田区の要望により大田区長と防災協定を締結しました。

〈(株)松本建築設計事務所〉

JIA 城北地域会

代表：松本 哲夫



■ 2011年度の活動は、地域に信頼される建築家として、「コミュニティ・アーキテクト」について考え、研鑽を積んだ1年でした。そして、このことは、地域での市民との活動において、大いなる刺激となりました。

2回のまち歩きと、地域会誌の刊行を行ないました。練馬区石神井地区のまち歩きでは、石神井川を通じた地域でのまちづくり活動を伺い、旧古河庭園から染井銀座商店街へのまち歩きでは、地域の歴史的な資産を、街の活性化に役立たせようと努力する商店街の方の活動を、伺いました。

地域会誌は、城北4区の頭文字から「KNIT」と命名し、第1号を11月に発行しました。第1号の特集は城北地域を横断し、景観上も共通して重要な「石神井川」を取り上げました。地域で市民との活動を重ねてきたからこそこの話題や見解が、小さな冊子の中にぎゅぎゅりと詰まったものとなりました。 〈鈴木和貴/PAX建築計画事務所〉



まち歩き・石神井川



まち歩き・旧古河庭園

JIA 港地域会

代表：大倉 富美雄



■ MASセミナーで頑張る

MAS(当会セミナー)を通じ、地域住民の住まい・街・文化への関心を高め、建築家との距離感を詰めることが、大きな目標。

1) 7月30日、初代会代表だった、野老正昭さんの思い出を語る会。あまりの突然の他界を受け、改めて、先輩の足跡をたどる必要を実感。設計された、日本キリスト改革派東京恩寵教会<渋谷区恵比寿西1-33-9>で、友人だった高橋橋一さんもお招きし、奥様からも人となりや往時の話を聞いた。注いだ情熱の跡が見える教会で、参観の価値がある(第4回)。

2) 10月29日、バイエルン州建築家協会の水島信氏を招き、「日本の街並みはなぜ美しいのか」に沿って、講演を依頼。何度も来日講演があり、かの地で行政にも関わっている、彼我の差などについて意見を伺った。やはり、民間ががんばるしかないのだろうか(第5回)。

3) 2012年3月24日、前回主題テーマに沿って、会員の鈴木理巳さんが講義。引き合いに、何度も通っている「バルセロナ」を。街の出来方から道路、公園のあり方、文化の混合への取捨のつけ方など、実例を持って解説。後はワインで楽しいひと時を過ごした(第6回)。



第6回ワイン・パーティー

〈(有)大倉富美雄デザイン事務所〉

JIA 目黒地域会

代表：松原 忠策



執筆者：棚橋 廣夫

■ 建築家が地域社会に何ができるか問われた年

2011年度といえば、これほど我々建築家が、地域社会にたいして何ができるか問われた年は過去になかったように思われる。3.11東日本大震災と、これに伴う東北地方の沿岸部を襲った津波災害である。我々目黒地域会は、早速東北復興支援について何ができるか協議した。当時、目黒地域会は区行政との連携活動の一環として、東京建築士会、東京建築士事務所協会の会員と共に、目黒の街づくりのスタディー活動を行っていたので、早速支援活動を呼びかけ、「めぐろ気仙沼まちづくり会議」を立ち上げた。我々は、建築・都市・街づくりを考える専門家集団である。この知見を活かし今回の1000年に一度とも言われる津波被害から、気仙沼市の復興と今後の街づくりを提案しようということになった。気仙沼市は漁業のまち、市民の多くは海とともに生活してきたわけで、海を切り離して内陸への移転はできない。「めぐろ気仙沼まちづくり会議」では、人工地



菅原気仙沼市長に提案説明を行う

盤を用いた復興計画案を作成、これまで2回現地気仙沼市の商工会議所で説明会を行ってきた。今後も継続的に活動を継続して行く予定である。

〈エディターネットワーク建築研究所〉

■ 地域会一覧 (2011年度)

| 県名 | 地域名 | 代表者名 |
|-------|------------|-------|
| 1 神奈川 | JIA 神奈川 | 青木恵美子 |
| 2 千葉 | JIA 千葉 | 櫻井修 |
| 3 埼玉 | JIA 埼玉 | 三浦清史 |
| 4 茨城 | JIA 茨城クラブ | 天茂彦 |
| 5 栃木 | JIA 栃木クラブ | 慶野正司 |
| 6 群馬 | JIA 群馬クラブ | 松村和雄 |
| 7 山梨 | JIA 山梨クラブ | 長田孝三 |
| 8 長野 | JIA 長野県クラブ | 赤羽吉人 |
| 9 新潟 | JIA 新潟クラブ | 塚本久志 |
| 10 東京 | JIA 中野クラブ | 近藤弘文 |
| 11 | JIA 三多摩地域会 | 高田典夫 |
| 12 | JIA 杉並地域会 | 遠藤勝勸 |
| 13 | JIA 新宿地域会 | 菊地守 |
| 14 | JIA 城東地域会 | 伊藤政広 |
| 15 | JIA 文京地域会 | 野生司義光 |
| 16 | JIA 渋谷地域会 | 三井所清典 |
| 17 | JIA 世田谷地域会 | 小林正美 |
| 18 | JIA 千代田地域会 | 赤堀忍 |
| 19 | JIA 中央地域会 | 山本浩三 |
| 20 | JIA 城南地域会 | 松本裕 |
| 21 | JIA 城北地域会 | 松本哲夫 |
| 22 | JIA 港地域会 | 大倉富美雄 |
| 23 | JIA 目黒地域会 | 松原忠策 |

ミケランジェロ会

事務局：阿部 一尋



■ スケッチ会と展示会

東北大地震後で4月後半のまだ桜が散り切っていない時期に、東京中央区佃島でスケッチ会を開催した。10名ほどの参加。船溜まりや長屋など下町情緒あふれる景色と近代的マンションの対比を描きとめました。帰りは月島でもんじゃパーティでした。6月には新宿ブロムナードで展示会。13名28作品。節電中でもあり、折角の展示がよく見えませんでした。11月には小金井公園とその中の江戸東京たてもの園にてスケッチ会です。8名の参加で紅葉の景色と様々な時代の建物のスケッチを楽しみました。



小金井公園のスケッチ会

えませんでした。11月には小金井公園とその中の江戸東京たてもの園にてスケッチ会です。8名の参加で紅葉の景色と様々な時代の建物のスケッチを楽しみました。

〈AB 住計画〉

デザイン部会

部会長：連 健夫



■ 「3.11 とグローバルデザイン」 が出版されました。

昨年の UIA 東京大会でのシンポジウムの内容を基に、日本建築家協会・デザイン部会編著で鹿島出版から新刊「3.11 とグローバルデザイン」が出版されました。地球化と地域化を併せて捉えるというグローバルデザインは復興のみならず、今後の建築や都市を考える上で重要な視点です。6月8日(金)18時~21時 JIA 館1階建築家クラブにて「3.11 とグローバルデザイン出版記念トーク・パーティー」を企画しております。是非、ご来訪下さい。尚、新刊の印税はすべて被災地を支援している NPO に寄付されます。



UIA 東京大会でのシンポジウム「災害復興とグローバルデザイン」



定価 2400円+税、A5判 168P、英文併記 (Summary)

〈連健夫建築研究室〉

都市デザイン部会

部会長：鯉坂 徹



■ 定例会・見学会(北新宿)・ツアー(真壁・仙台)・レクチャーで情報交換を行い、「日本の街はなぜ美しくならないのか」と議論を重ねました。特に震災と街づくりに関して、「街の移動はあり得るか」「吉田慎吾氏のブルーシートから YR シートへ」「東日本大震災で日本のまちづくりは変わるか(阿部俊彦氏 永野聡氏)」等のレクチャーを開催、6月には観光客が消えた北関東の街を体感し我々に何が出来るのかと明け方まで議論。9月は UIA 東北ツアー「被災地で考える 災害と復興」、11月には山形県金山町の景観形成について「地域での建築家の活動(片山和俊氏)」等、実務に生かせる数々の知見を楽しく共有しました。



桜川市真壁にて(2011年6月)

〈(株)三菱地所設計〉

住宅部会

部会長：湯浅 剛



■ 美しく住みやすい街と創造性豊かな住文化の構築に寄与すること”を理念に、OZONE と LIXIL:GINZA で、計 23 回の市民向けセミナーを、また街歩きや子供向けワークショップも開催しました。UIA 東京大会では「世界住宅会議」を主催し、世界の家・街並み展、建築家の住宅模型展、子ども空間ワークショップの3つのイベントを通して、多数の来場者に恵まれ、豊かな暮らしと住文化について、広く情報発信を行いました。災害支援活動や仮設住宅、エネルギーなどをテーマとした勉強会を毎月開催し、会員の自己研鑽をはかりました。



子供空間 WS



世界の家・街並み展

エネルギーなどをテーマとした勉強会を毎月開催し、会員の自己研鑽をはかりました。

〈アトリエ六曜舎〉

メンテナンス部会

部会長：宮城 秋治



■ 既存建物のメンテナンス手法を広く普及させるために「巡る」をコンセプトにしたところ、東日本大震災がおきました。そのために、JASO 耐震総合安全機構とともに調査団をこれまでに第6次にわたり派遣し、津波による建築や街の被災状況をまとめてきました。「津波と街と建築」(テツアドー出版)このなかには原子力災害対策本部から公益目的の許可をいただき、福島第一原子力発電所の事故による20km警戒区域内の調査も含まれています。JIA 東北支部の協力も得て仙台のマンションの地震による被災状況も調べることもできました。「3.11 平成津波と集合住宅」、設備の技術者がまとめた「東日本大震災 53 日目 忘れることのできない記憶」にも協力しています。〈宮城設計一級建築士事務所〉



3.11 平成津波被害記録と提言「津波と街と建築」(テツアドー出版)

住宅再生部会

部会長：鯉井 勇



■ 建築に関わる環境としての美しい国土を、次世代に残し引き継ぐテーマを現実化するため、建築家はもとより住み手である一般の参加をも含めた、よりよい関係の中で目標を提示し活動しています。現在は50余名のJIA会員/非会員で構成され、隔月1回、研究会・事例発表を行っており、昨年度はセミナー「木暮沙の仕事」「堀内広治の仕事」「鉄骨造3階建のリニューアル」・「千葉県佐原町並み見学旅行」等を開催。東日本大震災の現地調査や被災度判定等の活動から、被害調査報告会等、またUIA千人茶会の手伝いも行いました。今年度も事例発表会の充実を図り、出版物・ネット等一般への情報発信、建築家の情報交換・研究の場としていきます。〈(株)藍設計室〉



UIA 大会千人茶会サポート

今年度も事例発表会の充実を図り、出版物・ネット等一般への情報発信、建築家の情報交換・研究の場としていきます。〈(株)藍設計室〉

情報開発部会

部会長：天神 良久



■ 情報開発部会は賛助会員 G グループと合同で活動しています。会員数は部会員が12名。G グループ会員は、CAD・情報処理系、教育・出版系会社が所属しています。月に一回部会を開催しています。主なテーマは IT 系 (CAD、CG、情報通信) と、時の技術動向に関する勉強会が中心です。講師をお呼びしたり、会員・G グループ会員内から新情報を発表してもらったりしています。今年、アーキテクツガーデン期間内の6月29日(金)に省エネビル(LED照明とセンサー連動の制御システムビル)の見学会を企画しています。部会委員募集中です!(気さくな部会です。入会希望、質問等は、事務局:井出:ide@pivot.co.jp に連絡ください。)



明とセンサー連動の制御システムビル)の見学会を企画しています。部会委員募集中です!(気さくな部会です。入会希望、質問等は、事務局:井出:ide@pivot.co.jp に連絡ください。)

〈(株)ケー・デー・シー〉

建築交流部会

部会長：上田 耕二



■ 薫風漾緑

部会の活動は、「建築家のメモ展」、見学会「時を経て輝きつづける建築の記憶~東京・関東の名建築を建築史家と訪ねる~」が中心ですが、気楽に楽しめる活動として、飲物等を囲んで講師の方との会話を楽しむ「サロンセミナー」、その時々に応じてタイムリーなセミナーなどを実施しています。会員の「興味のあること」と「楽しめること」を中心に、建築を媒介に様々な交流を目指しています。



第2回サロンセミナー「吉村順三とは」

なセミナーなどを実施しています。会員の「興味のあること」と「楽しめること」を中心に、建築を媒介に様々な交流を目指しています。

〈ユウ・デザインファクトリー〉

学芸祭部会

部会長：奥山 陽子



■ UIA 東京大会での演奏会開催は企画倒れに終わり、2012年1月13日の新春のつどいの懇親会にてピアノ BGM 演奏をしたのが唯一の活動になってしまいました。12年度は久しぶりの学芸祭開催を検討中です。

〈渋谷一彦 / 昌平坂建築研究所〉



奥山家のバイオリニスト達

建築家写真倶楽部

部会長：兼松 紘一郎



■ 写真を撮り都市と建築家を考えること

体調を考え小田急線ロマンスカー通勤を試みている。車窓を横切る建築群を見る。丘陵地におもちゃ箱住宅の連なりがあり、これは「建築家」の作品だと感じ取れる建築が一瞬現れ設計したのは誰だ!と思う。同時に朽ち果てそうなバラックに奇妙な魅力を感じ、それは何故だ?と思うのだ。建築家写真倶楽部の面々と青山通り界隈を歩いて建築を撮り写真展を行ったが、各自の視点と好奇心の発露の異なることが面白かった。車窓からの光景への好奇心と重なる。朽ちるバラックは時の持つ魅力かもしれない。それを語り合い、写真として定着させるこの部会の存在がそこにある。小田急線下北沢が変わる。その変遷を撮り続ける試みをしてもいい。都市と写真のアーカイヴスである。〈兼松設計〉

■ 部会一覧 (2011年度)

Table with 3 columns: Committee Name, Representative, and Chairman. Lists various committees like Mikelandjeoro, Design, Urban Design, etc.

FORUM

FORUM

Table listing names of supporters for the 2011 UIA grant, organized by branch (e.g., 相越, 相坂, 相田, etc.).

Table listing names of supporters for the 2011 UIA grant, continuing from the previous page (e.g., 関野, 宏行, 田中, etc.).



Bulletin 編集長 退任の御挨拶

Bulletin 編集長
湯浅 剛



■ちょうど2年前の春、前任の鈴木利美さんから編集長を引き継ぎました。同時に編集業務担当が株式会社スタジオネオに変わり、誌面や表紙デザインを一新。ただ編集方針や誌面構成はそのまま踏襲し、支部活動の情報掲載をしながら、地域会や委員会、部会の活動を積極的に取り上げ、よりインタラクティブな情報公開を心がけてきました。

「特集」では、保存問題大会や支部総会、アーキテクト・ガーデンなどの支部イベントを中心に掲載し、UIA2011 東京大会では、開催直前号やアンニアル号で全面的に特集記事を組みました。また3・11以降は、JIAの災害支援活動や被災地の地域会活動に焦点をあて、会員の懸命な活動を紹介しています。「エネルギーと建築の方向性」や「ヨーロッパの環境配慮型建築」なども、とても興味深い記事になりました。

「海外レポート」では、海外で活躍する日本人をはじめ、さまざまな方達に登場して頂きました。「覗いてみました他人の流儀」は、唯一、編集委員がインタビューに行って原稿をおこすというもので、建築家だけでなく、照明、サイン、ランドスケープ、デザイナーなど、異業種の専門家達の興味深い話も掲載しています。

この2つのコンテンツは、一般向けHPでも紹介しているので、

前広報委員長の中村高淑さんが目標にしていた「デジタルと紙媒体の融合」が、かなり実現化してきたかな、と感じています。

このアンニアル号をもって、Bulletinの編集長が、市村宏文さんへと変わります。

力不足の私が編集長として2年（昨年は住宅部会長との兼任で）。慌ただしく過ごしながらも何とか進めてこられたのは、河村委員長や中澤主査、支部広報委員のみなさん、事務局の皆さん、スタジオネオさん、そしてJIA会員の皆さんに、様々な形でサポートをして頂いたおかげだと改めて感じております。本当にありがとうございました。

2012年度は、アーキテクト・ガーデンやJIA建築家大会2012横浜も開催されます。また資格制度や公益法人化、災害・復興支援活動など、JIAとして進めていくべき問題はまだまだ山積。会員や一般市民にむけて、広く情報公開をすすめていくためには、HPやBulletinがますます重要なツールになるはず。河村広報委員長のもと、支部広報委員の皆さんの頑張りで、より充実した広報活動を行い、関東甲信越支部、そしてJIA全体が、より活性化されていくことを願っております。

広報副委員長 (HPWG 主査) 退任の御挨拶

HP 主査
中澤 克秀



■2008年度から広報副委員長(HPWG主査)を務めさせていただきまして、4年間という年月もあっという間に過ぎ去り、今年度を持って任期を終えることになりました。至らぬ点多々あったかと思いますが、広報委員会のメンバーに助けていただきながら、時代に合わせたホームページの広報活動を行なうことができたのではないかと思います。この場をお借りして皆様に御礼申し上げます。

思えばJIAに入会した年に20周年記念建築家大会が東京であり、新人の集いに出席しました。その後の懇親会で当時の中村委員長と意気投合し、広報委員会に所属しました。その後、入会1年も満たない時期に広報副委員長という大役を仰せつかり、簡単に引き受けてしまったのは、経験が浅く怖いもの知らずだったからでしょう。後からこんなに大変なのかと思いました(笑)

広報というのはいろんな窓口となるため、副委員長という立場でAGやUIAの委員会に積極的に参加しました。JIAにだいたいの時間を割きましたが、その分人脈も広がり、JIAのいろんな人と楽しくお付き合いさせていただきました。前任者の中村委員長、鈴木Bulletin編集長とは最初の2年間、広報以外のJIAイベントでもタッグ

を組み、特にAGではお二人のパワーが心強い限りでした。また、河村委員長と湯浅Bulletin編集長とはUIA大会の成功へ一緒に努力し、裏方として大変貴重な経験をさせていただきました。広報委員会は若い人が多く活発で、良き先輩たちのつくりあげた伝統もあります。そんな中、4年間を共にした仲間に助けられ、ここまでやって来れました。そしてHPを管理するスタジオネオの伊波さんをはじめとしたスタッフ、菊地さんを中心とした支部事務局の皆さんとは、忘年会やパーティーに出席してもらうほど仲良くしてもらい、楽しいお酒が飲めたと思います。

任期中は会員向けサイトのWEB自動投稿システム化を構築し、ブログ「JIA広報通信」の開設、一般市民向けサイト「建築家ONLINE」のリニューアル等、またBulletinと連携して、紙面とネット上での共有コンテンツの登場など、ネット時代に合わせたシフトチェンジができたと思います。今後は本部との連携や支部間の情報交換など、リアルタイムに情報の共有化ができればいいなと思います。私は退任しますが、JIAの一員として今後も支部広報には協力していきたいと思っています。支部広報の皆様、今後ともよろしく願いいたします。

Bulletin に広告を掲載しませんか

広報委員会委員長 河村 大助
Bulletin 編集長 湯浅 剛
支部事務局長 菊地 良一

■広報委員会では、支部会報誌 Bulletin への2012年度広告掲載申込みを募集しております。

Bulletin は、1987年以來 JIA 関東甲信越支部の支部会報誌として、支部会員建築家、関係官庁、教育機関、団体などに直接郵送する方法で2011年度は隔月号6刊と特別号1刊の合計7刊、毎号3,000部を発行する予定です。

| 広告掲載料金表 | | | 2012年5月現在 | |
|--------------------------------|--------------------|----------|-----------|---------|
| 掲載スペース | サイズ | 会員料金 | 一般料金 | |
| 表2(表紙裏) | 1ページ(174mm×267mm) | ¥150,000 | — | — |
| 表3(裏表紙の裏面) | 1ページ | ¥100,000 | — | — |
| | 半ページ(174mm×128mm) | ¥60,000 | — | — |
| | 1/3ページ(174mm×80mm) | ¥40,000 | — | — |
| 表4(裏表紙) | 1ページ | ¥200,000 | — | — |
| 差込みA4(1枚/A3二つ折り) ・印刷別(持ち込み) | | ¥50,000 | — | ¥80,000 |

←3000部の送料を含むので非常にお得です。

「広報委員として今年度を振り返る」

編集後記

■3月の震災、9月のUIA大会と大きな出来事が重なりました。特に震災関連は伝える事の難しさを痛感しました。 [市村]

■昨年度途中から全国学生卒コンの伝書鳩兼猫の手と広報委員二股でおりました。7月から広報本命です。校正しながら好き嫌いかかわらず読めるのが広報の魅力?? [倉島]

■震災の影響で体調をくずしたり心が折れたり、自分の弱さを思い知った1年でした。本当にいろんなことが次々起きた、一生忘れられない1年でした。 [杉本]

■UIAで明け暮れた今年度。さあ、広報委員会の最終年の次年度は建築家大会2012横浜! 協会の内外により開かれたJIAへともう一踏ん張り。 [高橋]

■関東甲信越支部の市民向けサイト「建築家online」のトップページ「今月の建てもの」を担当しました。このところコンスタントに2件以上の投稿があります。ぜひ皆さんもご投稿下さい。 [高安]

■震災復興関連やUIA東京大会など皆さんのご活躍を広報することで刺激を受け、勉強させていただきました。広報委員を務めて2年。来年度も刺激を受けながら発信して行きたいと思っています。 [土居]

退任のご挨拶

■関東甲信越支部の広報委員として早4年半経ちました。2007年末に別件で会館に来て、ひょんなことから迷い込むように?広報委員会に参加しました。当時の編集長の鈴木利美さんと副編集長の倉島さんをはじめ、皆さんの和気あいあいとして自由闊達な会議の様子がとても印象的だったことを思い出します。とにかく支部広報委員を言い表すと、これに尽きると思います。インタビューなどでは、普段は会えない人たちと接することができたのも、とても良い刺激でした。共に考え、話し合い、行動できたことに感謝しています。本当にありがとうございました。 [池元真克]

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| 編集 | : 社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 広報委員会 | 発行人 | : 菊地 良一 |
| 委員長 | : 河村 大助 | 発行所 | : 社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA 館 Tel: 03-3408-8291(代) Fax: 03-3408-8294 |
| 副委員長 | : 湯浅 剛・中澤 克秀 | 印刷 | : 株式会社 協進印刷 |
| 委員 | : 池元 真克・伊藤 暁・市村 宏文・榎本 雅夫 大川 宗治・倉島 和弥・近藤 剛啓・白橋 忠博 杉本 由美子・高橋 隆博・高安 重一・立石 博巳・田中 宣彰 土居 志朗・中村 隆則・山本 成一郎 | ■ JIA 関東甲信越支部関連サイト一覧 | |
| 編集長 | : 湯浅 剛 | ・(社)日本建築家協会(JIA) http://www.jia.or.jp/ | |
| 副編集長 | : 池元 真克 | ・建築家online(一般向け) http://www.jia-kanto.org/ | |
| 編集委員 | : 市村 宏文・大川 宗治・河村 大助・倉島 和弥・白橋 忠博 立石 博巳・田中 宣彰・土居 志朗・菊地 良一 | ・JIA 関東甲信越支部(会員向け) http://www.jia-kanto.org/members/ | |
| 表紙/本文デザイン | : (株)スタジオネオ 伊波 サチヨ・守田 真紀子 | | ©社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2011 |
| ■販売価格 | 300円(本体286円+消費税14円)/会員の購読料は会費に含まれています。 | | |

History

関東甲信越支部の変遷

